

リフィル処方箋応需の実態調査報告書

一般社団法人 日本保険薬局協会
医療制度検討委員会

2022年12月

調査概要

- 目的：リフィル処方箋（以下リフィル） 応需実績と薬局における対応の実態把握
- 内容
基本情報、医療機関のスタンス、制度の認知度、応需実績、薬局薬剤師の対応、業務負担、処方箋の管理
- 対象：NPhA正会員
- 方法：WEBアンケート 1 薬局 1 回答
- 回答期間：2022年11月2日（水）～11月24日（木）
- 回答数：4,352回答
- 実施主体：一般社団法人日本保険薬局協会 医療制度検討委員会

調査結果 Summary

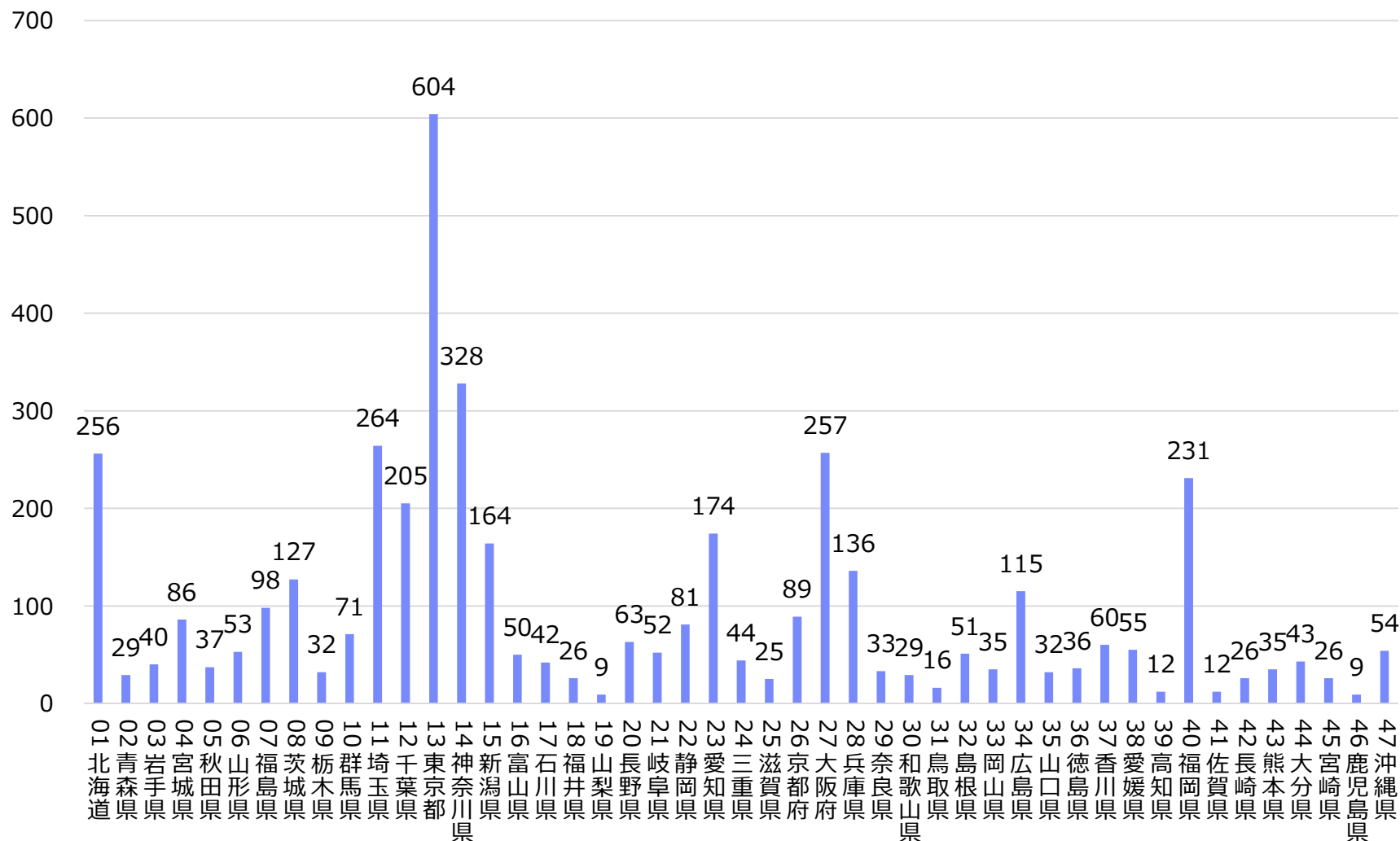
回答した薬局のうち、92.4%でリフィル応需に関する手順書の配置や従業員への周知等、リフィル処方箋応需の体制が整っており、22/4月から10月の期間でリフィル応需の実績がある薬局は42.1%であった。22/10月単月では26.0%の薬局で実績があり、総受付件数に対するリフィル割合は0.102%であった。また、リフィル割合が1%以上であったのは58薬局のみであり、一部の薬局に実績が集中している傾向が見られた。

薬局薬剤師の対応としては、服用期間中のフォローアップを実施している薬局は85.1%、医療機関へのフィードバックは78.6%であり、実際に受診勧奨をした事例も複数報告された。一方で、他の業務と比べると他薬局への情報提供の実施率が若干低かった。リフィル2、3回目を他薬局にて調剤されることもあることから、リフィルの普及とともに薬局間連携の一層の推進が必要となる。

薬局側のメリットとしては、患者・医療機関とのコミュニケーションの増加や、それによる信頼度の向上、職能発揮を上げる意見が多く、実際にリフィル応需を通じて患者や医療機関との関係性が良くなったという回答も得られていることから、引き続きNPhA正会員内でリフィル応需を通じた好事例等の共有を行っていく。

回答薬局数の都道府県分布

(N=4,352薬局)



回答薬局数の構成

■グループ処方箋受付回数

40万回超/月	4万回超～ 40万回以下/月	3万5千回超～ 4万回以下/月	3万5千回以下/月	総計
3,029	824	96	403	4,352
69.6%	18.9%	2.2%	9.3%	100%

■立地

病院前（500 床以上）	病院前（200- 500床未満）	病院前（200 床未満）	診療所前	病院敷地内	診療所 敷地内	モール型（医 療ビル含む）	面対応	総計
212	443	623	2,051	89	66	413	455	4,352
4.9%	10.2%	14.3%	47.1%	2.1%	1.5%	9.5%	10.4%	100%

■店舗形態

調剤メイン	ドラッグストア等併設薬局	総計
4,021	331	4,352
92.4%	7.6%	100%

■2022年10月の処方箋受付回数

0-999回	1000-1999回	2000-2999回	3000-3999回	4000回以上	総計
1,369	1,880	727	252	124	4,352
31.5%	43.2%	16.7%	5.8%	2.8%	100%

回答薬局数の構成

■ 集中度

70%以下	70-85%以下	85-95%以下	95%超	総計
1,471	895	1,078	908	4,352
33.8%	20.6%	24.8%	20.8%	100%

■ 調剤基本料

調剤基本料 1	2	3 - イ	3 - ロ	3 - ハ	特別調剤基本料	総計
905	56	429	1,437	1,406	119	4,352
20.8%	1.3%	9.9%	33.0%	32.3%	2.7%	100%

■ 地域支援体制加算

加算 1	加算 2	加算 3	加算 4	加算なし	総計
585	958	406	270	2,133	4,352
13.5%	22.0%	9.3%	6.2%	49.0%	100%

■ 認定薬局・健康サポート薬局（1店舗につき複数該当あり）

地域連携薬局	専門医療機関連携薬局（がん）	健康サポート薬局	特になし	回答数
953	28	817	2,954	4,352
21.9%	0.64%	18.8%	67.9%	

■ 検体測定室の設置有無

ある	ない	総計
79	4,273	4,352
1.8%	98.2%	100%

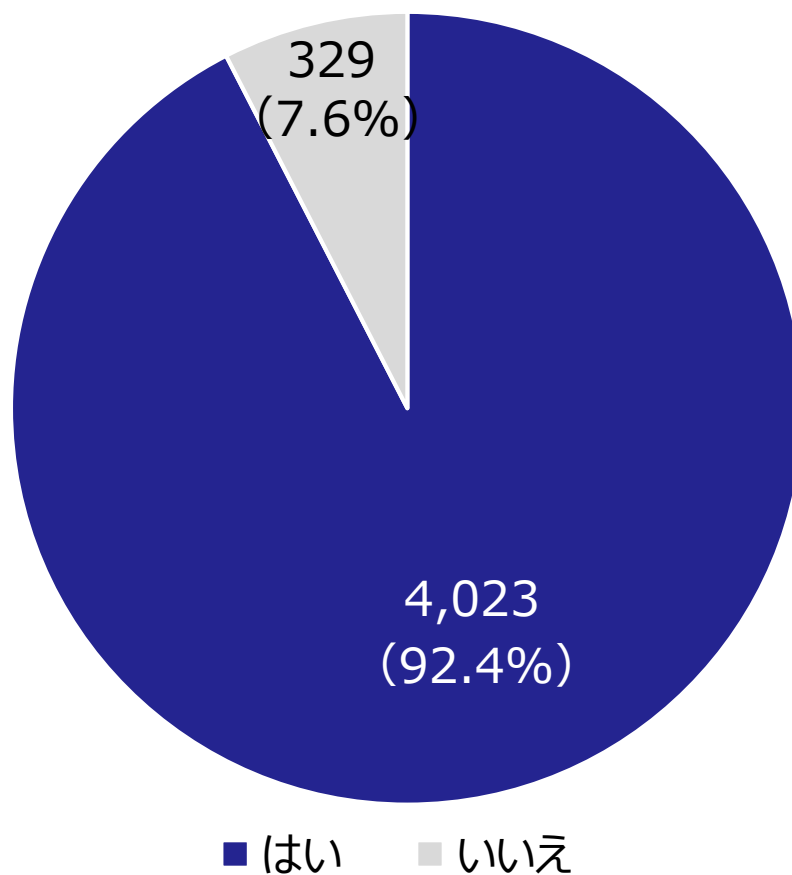
リフィル応需の環境

- 薬局のリフィル応需体制
- 主応需医療機関のスタンス
- 患者の認知度

リフィル応需体制

リフィル応需に関する手順書の配置や従業員への周知等、リフィル応需の体制が整っていると回答したのは、92.4%であった。

問. 貴店では手順書の配置や従業員への周知等、リフィル処方箋応需の体制が整っていますか？（N=4,352薬局）

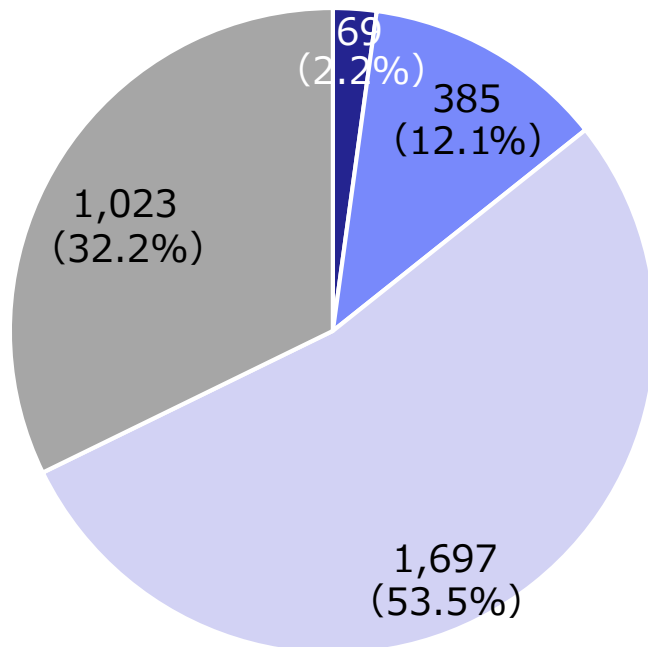


医療機関のスタンス

活用に積極的な理由は「患者の希望」「安定している患者に活用」「受診負担軽減」の順で多かった。消極的な理由としては「医師の診察は必須」「収益減少」「治療経過がわからなくなる」との回答が多かった。

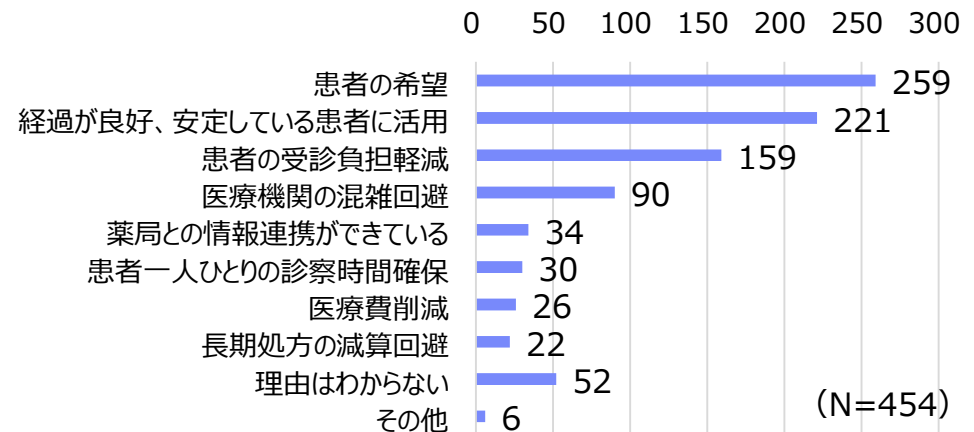
問. 貴店の主応需医療機関のリフィル処方箋に関するスタンスを教えてください。

(N=4,352薬局中、回答あり3,174、わからない1,178)

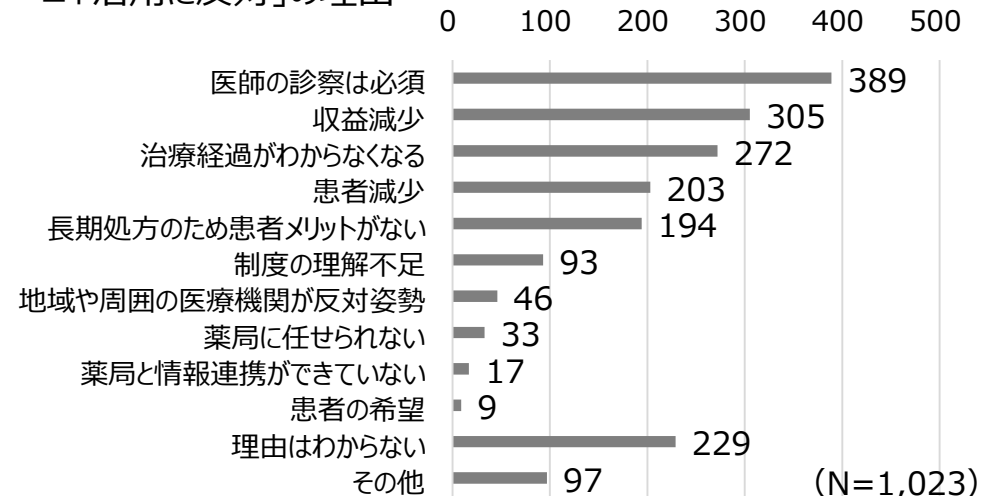


- 積極的に活用している
- 活用している
- 患者の希望があれば検討
- 活用反対

■「積極的に活用している」「活用している」の理由



■「活用に反対」の理由



活用に反対の理由 その他

その他、活用に反対する理由として診療科や処方内容による理由や、周囲の状況、医療機関のメリットがない点、また、患者の理解度や不正リスクといったコメントがあげられた。

■ 診療科や処方内容による理由

- ・精神科のためリフィル対応のできない薬処方が主となるため /・心療内科であり1週間ごとの薬の微調整が必要であるため
- ・精神科門前で日数制限のある処方薬が多くそもそも制度を利用できない患者が多数を占めるため
- ・精神科のため処方箋管理が難しい方が多いことまた状態が変わるのを懸念して長期処方を出しにくい
- ・門前病院が心療内科のため処方日数制限の薬が多い /・精神科単科の為、処方せんの患者管理が難しいから
- ・精神科でほとんどの患者さんに向精神薬が出ていてリフィル処方箋ができないため /・心療内科であり、向精神薬の処方が多いため。
- ・小児科応需でリフィルを活用すべき患者が皆無 /・小児科皮膚科がメインであり必要性を感じていないと思われる
- ・眼科では毎回検査おこなっており採用する様子はない /・眼科で高齢の患者が多いため定期的に診察は必要との考え
- ・主応需先が透析クリニックのため長期処方がない /・整形外科の為、外用処方が多い為
- ・90日の長期処方がメインのため、リフィル実施はしないと聴取 /・ほぼ急性期の症状の為、リフィルで対応できないため
- ・リフィル処方箋活用できるような状態が安定している患者様は他病院、クリニックに転院になるため。

■ 医療機関の方針や体制による理由

- ・反対をしてはいないが行うとしたら病院グループ全体で導入予定のため現状は未定 /・主応需医療機関のグループで決まっているため
- ・病院のシステム的な体制と運用の方法がまともでないとのこと /・機器、システムが対応していないため /・処方箋にリフィルの欄なし
- ・市民病院のため議会で承認が下りるまでは病院でも動けない
- ・周辺医療機関の発行状況により検討予定 /・リフィル処方がメジャーになるまでは周囲の医療機関の状況も気にしている
- ・制度が始まったばかりのため様子見との回答あり /・全ての処方箋の「リフィル可」欄に取り消し線が引かれている

■ 医療機関にメリットがない

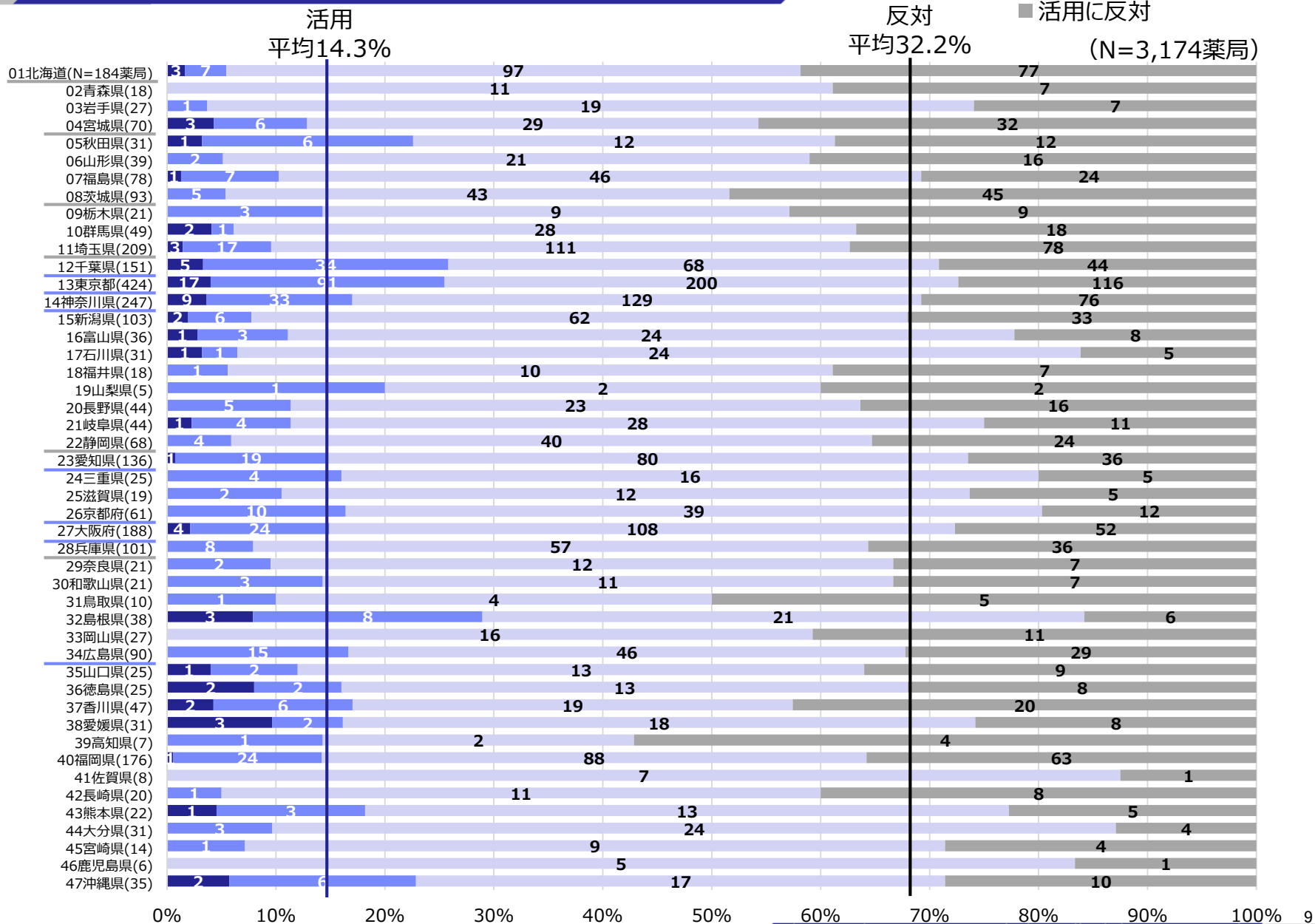
- ・病院の利益に関してメリットなしと判断、積極的に取り入れる意義が見出せないよう
- ・医療機関のメリットが低い上に余計な手間が増えるため /・来局患者が減り損失になるため。

■ 患者の理解度や不正リスクによる理由

- ・高齢患者が多くリフィルの概念が理解できない /・高齢患者の多い過疎地域のため患者が制度を理解できない
- ・処方箋原本の紛失リスクあり /・精神科のため患者様のお薬や処方箋の管理能力が低い /・リフィル処方を無くしてしまう可能性大
- ・偽造処方箋や患者自身による処方箋紛失のリスクがあり対応などが示されていないため
- ・リフィル処方の欄があると患者がチェックすればたやすく偽造できてしまうので /・患者による不正防止のため

医療機関のスタンス×都道府県

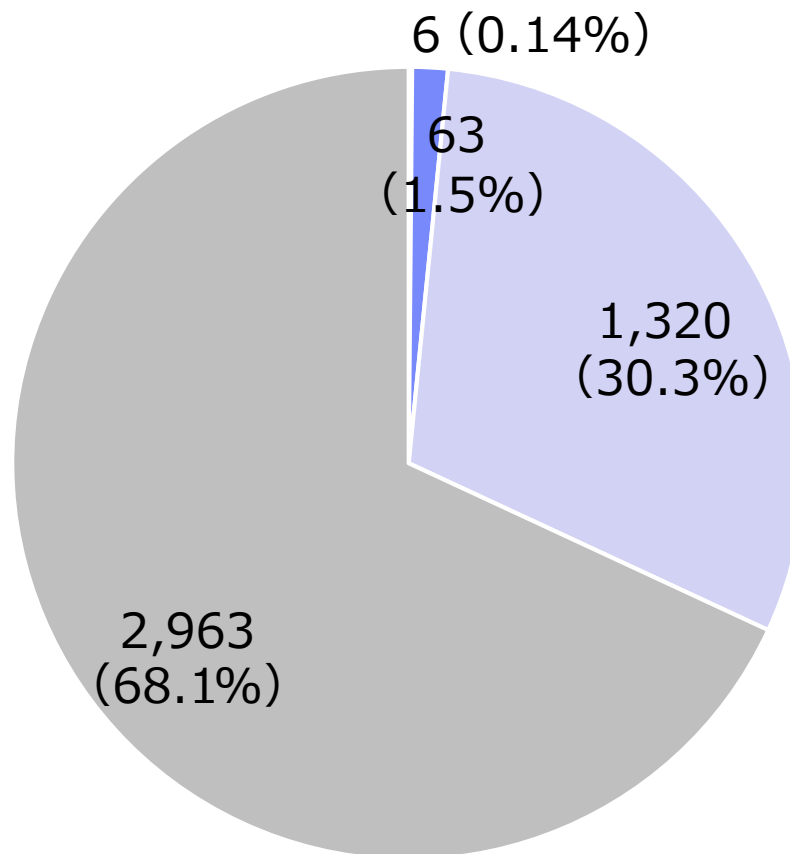
- 積極的に活用している
- 活用している
- 患者の希望があれば検討
- 活用反対



患者からの問い合わせ

患者からリフィル制度に関する問い合わせを受けたことがあると回答したのは、31.9%であった。

問. 患者からリフィル制度に関して問い合わせを受けることはありますか？（N=4,352薬局）



■ よくある ■ ある ■ たまにある ■ ない

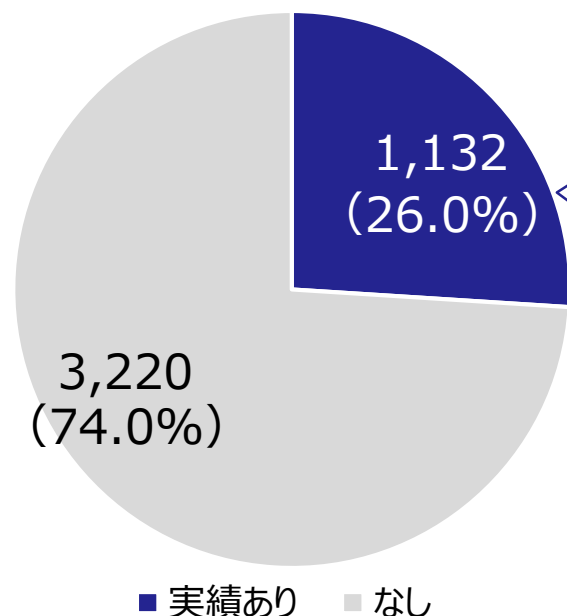
22/10月単月の応需実績

- 2022年10月単月のリフィル応需実績
- リフィル応需回数分布
- リフィル割合分布
- 日常的に処方箋を応需している医療機関からの割合

22/10月単月実績

2022年10月単月では26.0%の薬局でリフィル応需の実績があり、総受付件数のうちリフィル割合は0.102%であった。リフィル割合が1%以上となった薬局は58薬局であり、一部の薬局に実績が集中している傾向が見られた。

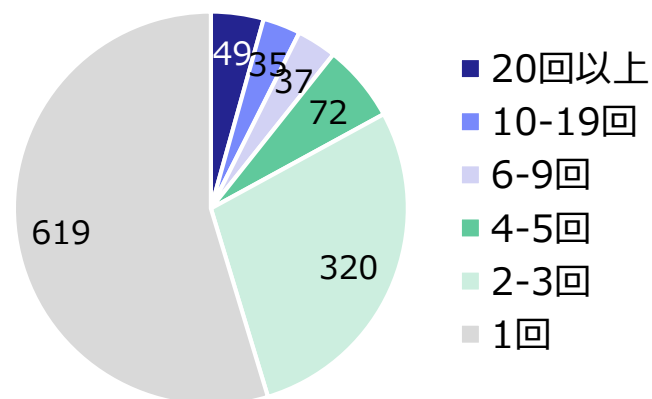
「2022年10月単月」においてリフィル処方箋応需実績があった薬局 (N=4,352薬局)



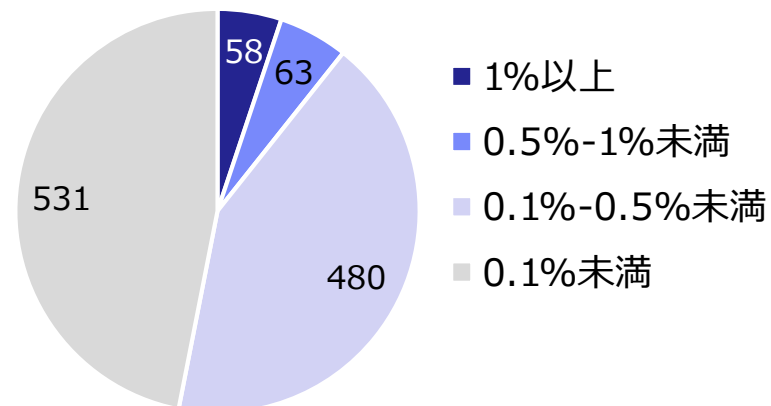
4,352薬局における2022年10月単月の
リフィル応需回数/総受付件数=リフィル割合 (%)
 $8,769 / 8,584,374 = \mathbf{0.102\%}$

上記のリフィル応需と合わせて、オンライン服薬指導が
実施されたのは「**12薬局において18回**」であった

リフィル応需回数分布 (N=実績がある1,132薬局)



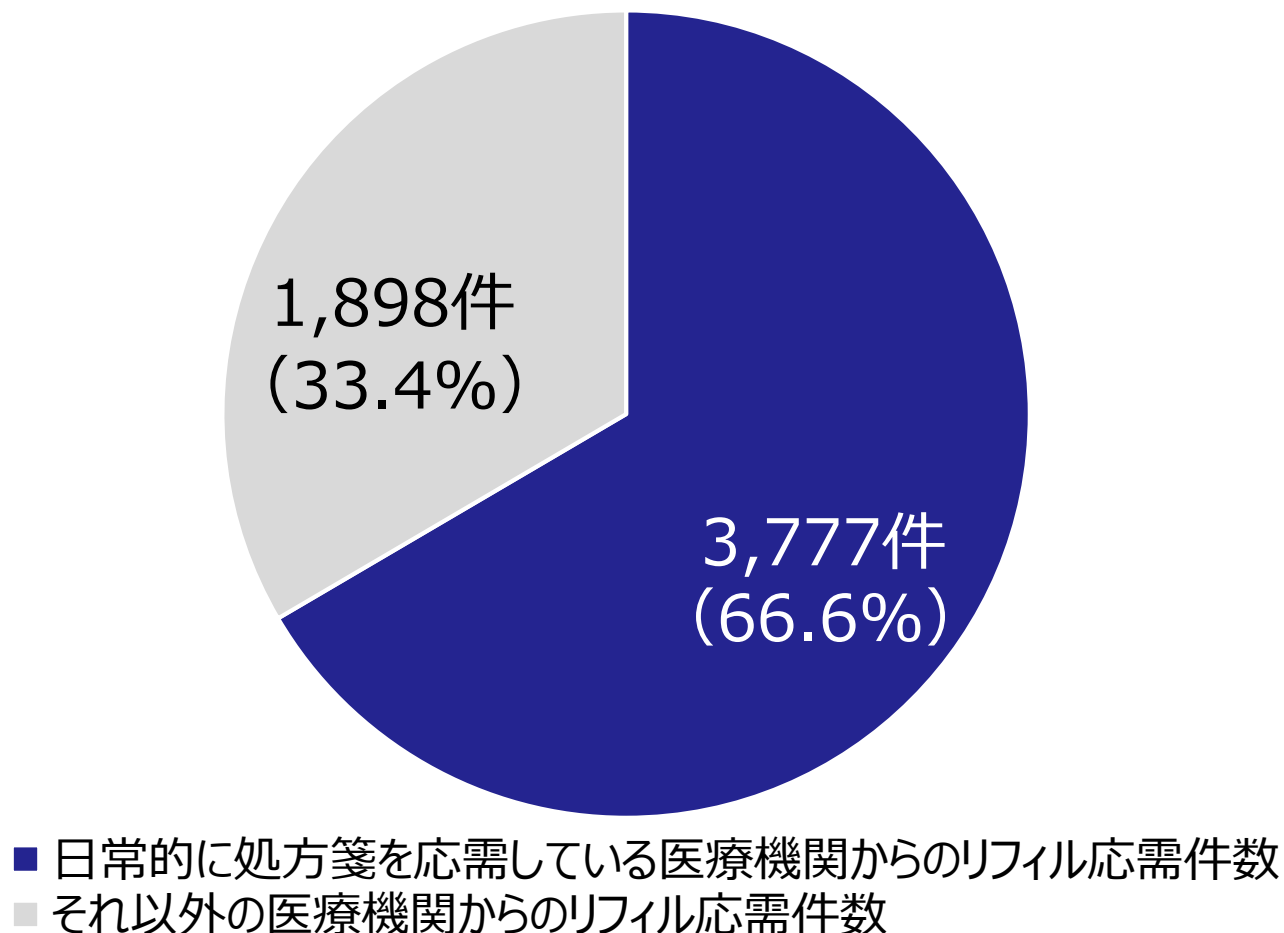
リフィル割合分布 (N=実績がある1,132薬局)



日常的に処方箋を応需している医療機関からの割合

2022年10月にリフィル応需のあった1,109薬局、5,675件のうち「日常的に処方箋を応需している医療機関からのリフィル応需」は66.6%であった。

問. 「**2022年10月単月**」のリフィル受付件数のうち「日常的に処方箋を応需している医療機関」からの割合を教えてください。(N=1,109薬局、リフィル5,675件)



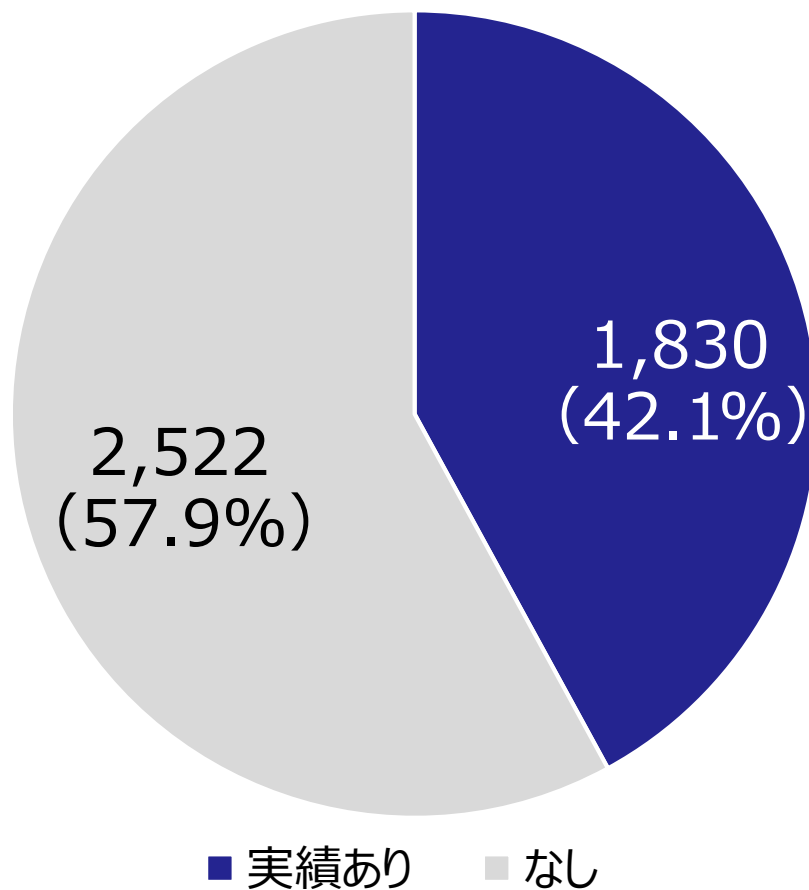
これまでにリフィル応需があった薬局の傾向

- これまでにリフィル応需があった薬局数とその傾向
- 1 回目は応需したが 2、3 回目の応需がなかった割合の傾向
- 1 回目は応需していないが 2、3 回目を応需した割合の傾向
- リフィルが増患につながるか否かの傾向
- 診療科の傾向
- リフィル発行の切っ掛け

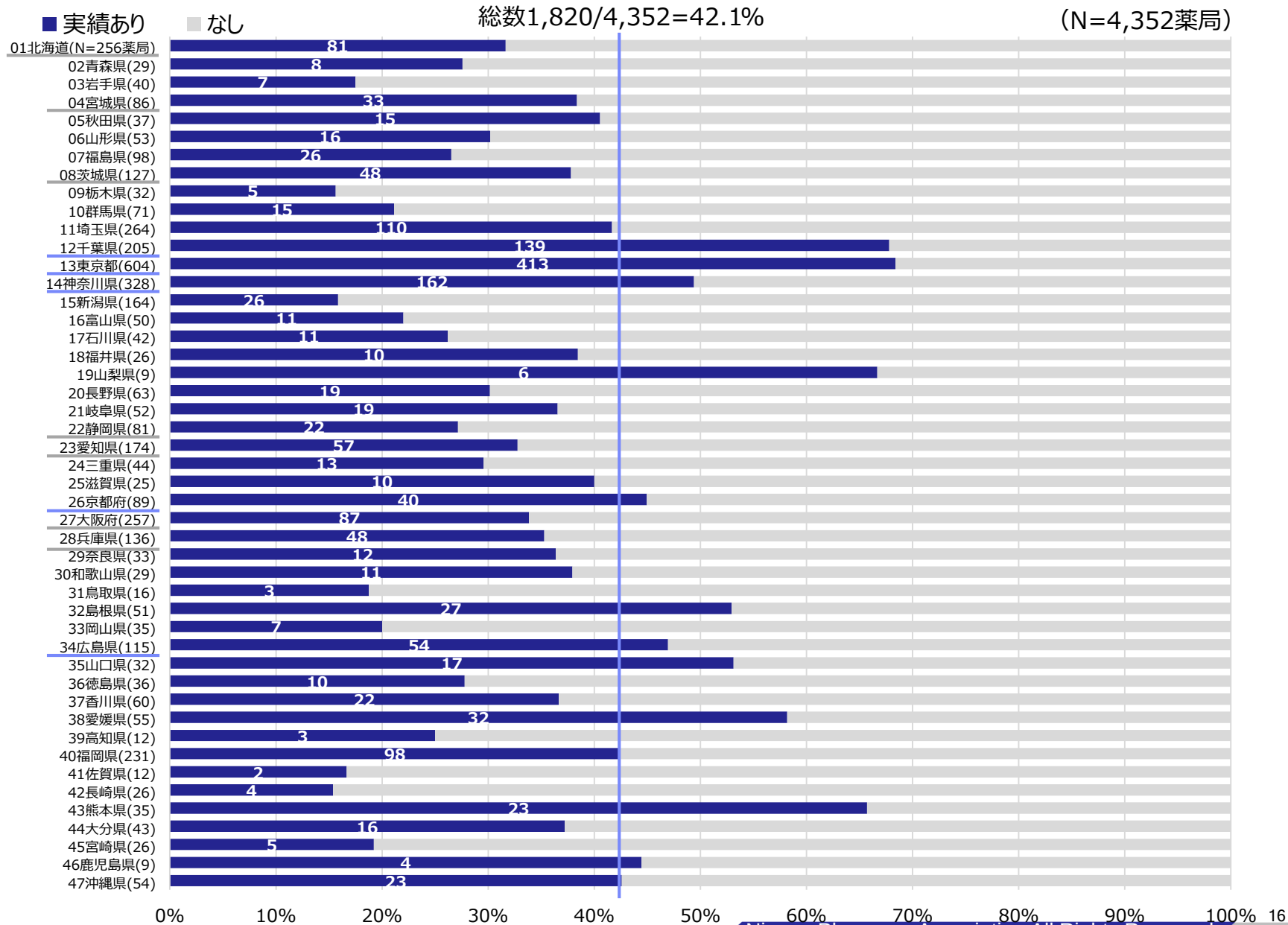
応需薬局

2022年4月～10月の期間において42.1%の薬局でリフィル応需の実績があった。

問. 2022年4月から制度が始まり「**これまでに**」リフィル処方箋応需の実績はありますか？（N = 4,352薬局）



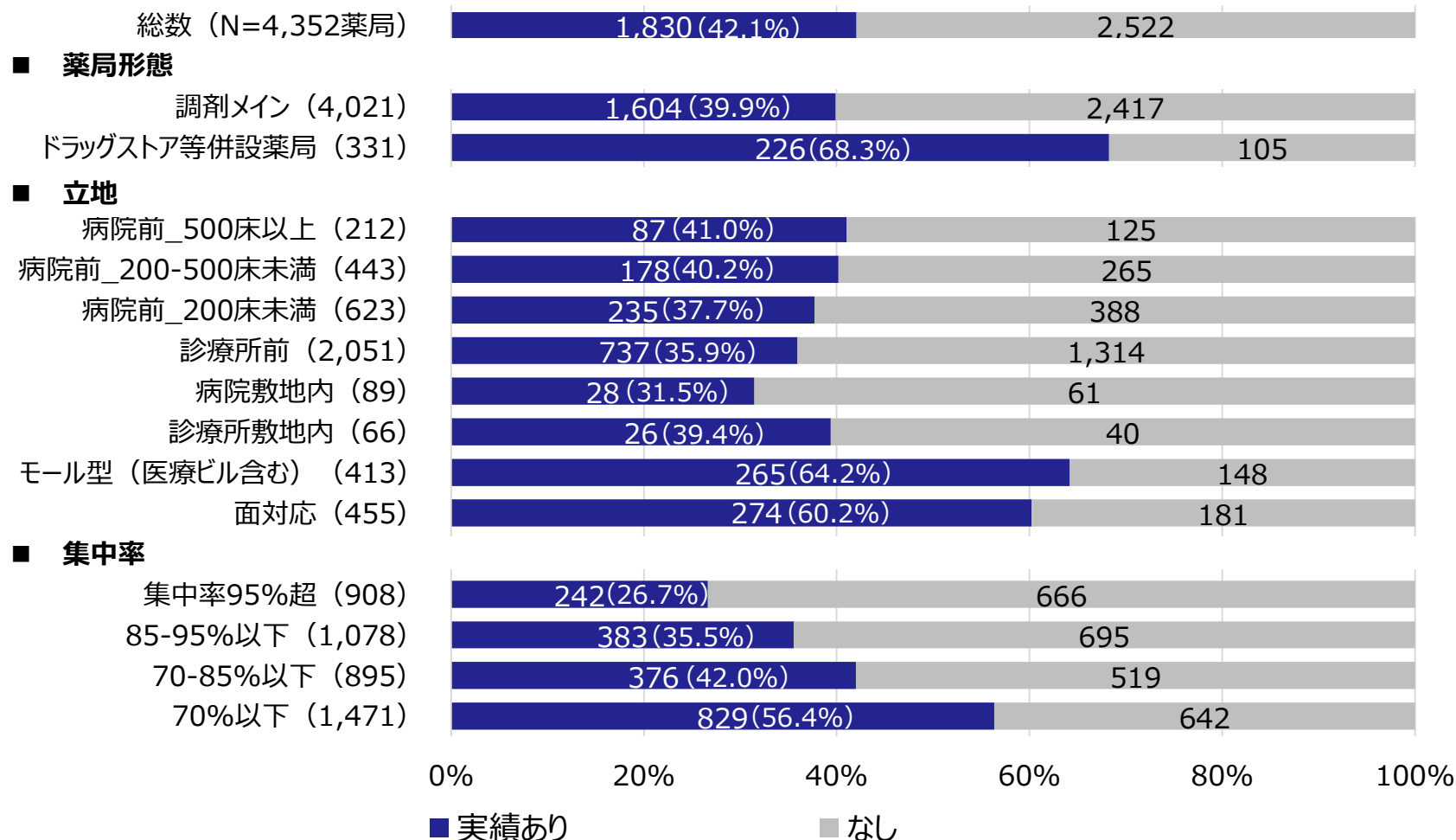
応需薬局×都道府県



応需薬局×薬局形態・立地・集中度

回答薬局数に差はあるものの「ドラッグストア等併設薬局」「モール型」「面対応」「集中度70%以下」といった属性において、「リフィル応需の実績がある薬局」が多い傾向であった。

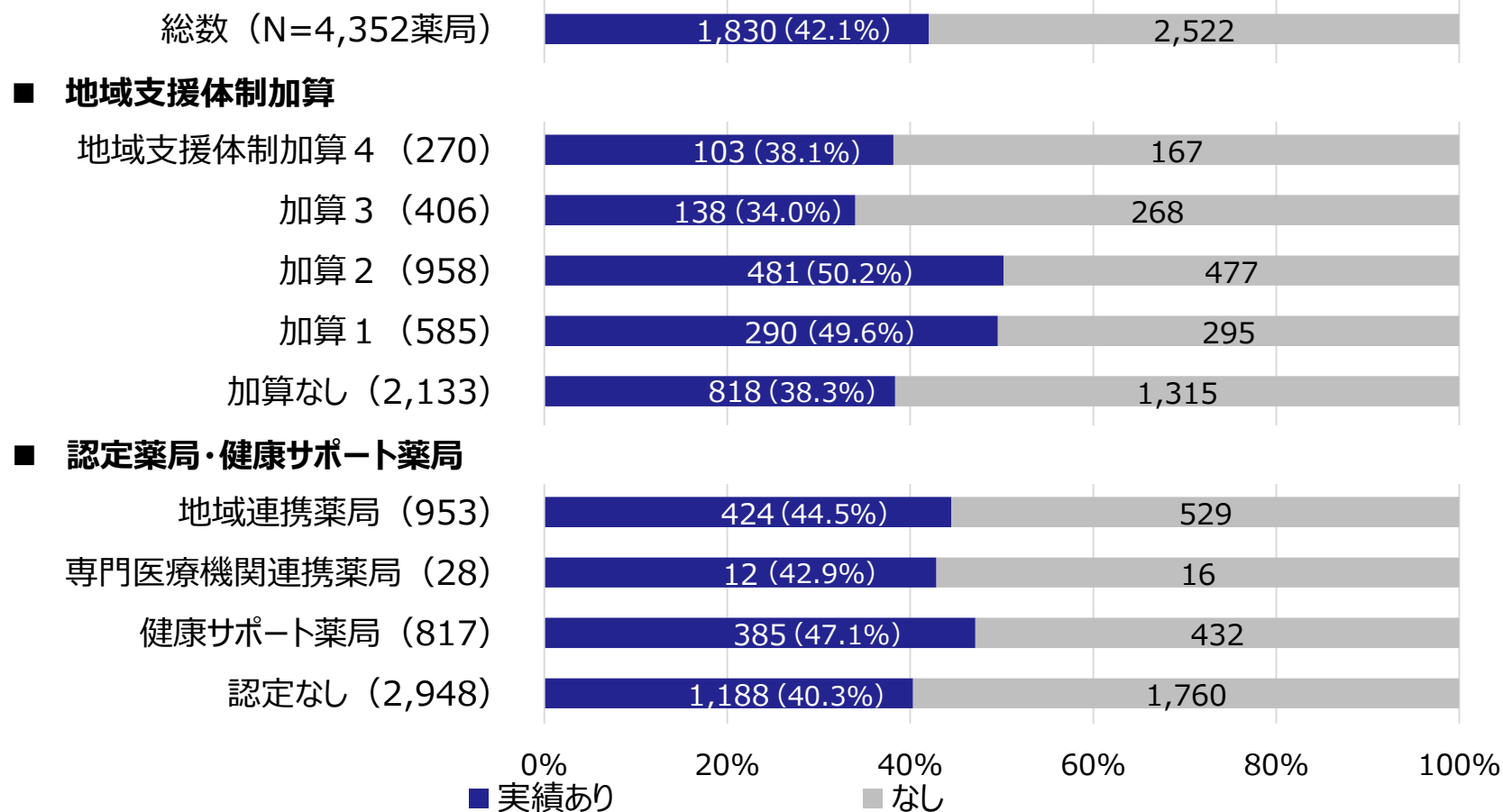
問. 2022年4月から制度が始まり「これまでに」リフィル処方箋応需の実績はありますか？（N=4,352薬局）



応需薬局×薬局機能

リフィル応需の実績がある薬局と、薬局機能との関係性には明確な傾向は見られなかった。

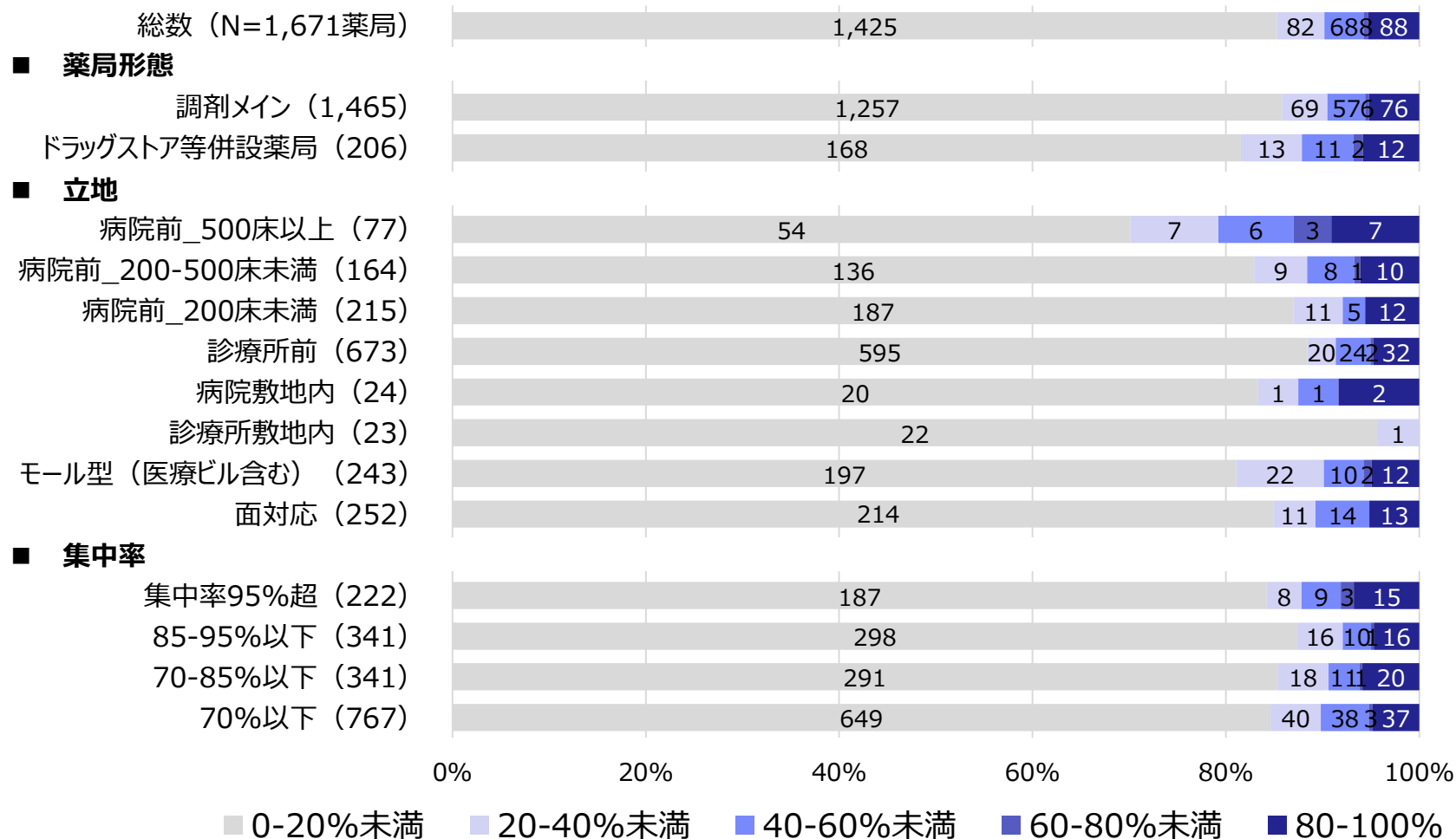
問. 2022年4月から制度が始まり「**これまでに**」リフィル処方箋応需の実績はありますか？（N=4,352薬局）



「1回目応需・2、3回目なし」×薬局形態・立地・集中率

リフィル1回目は応需したが2、3回目の応需がなかった割合に関して、「病院前_500床以上」において若干高い結果となったが、それ以外は特に傾向は見られなかった。

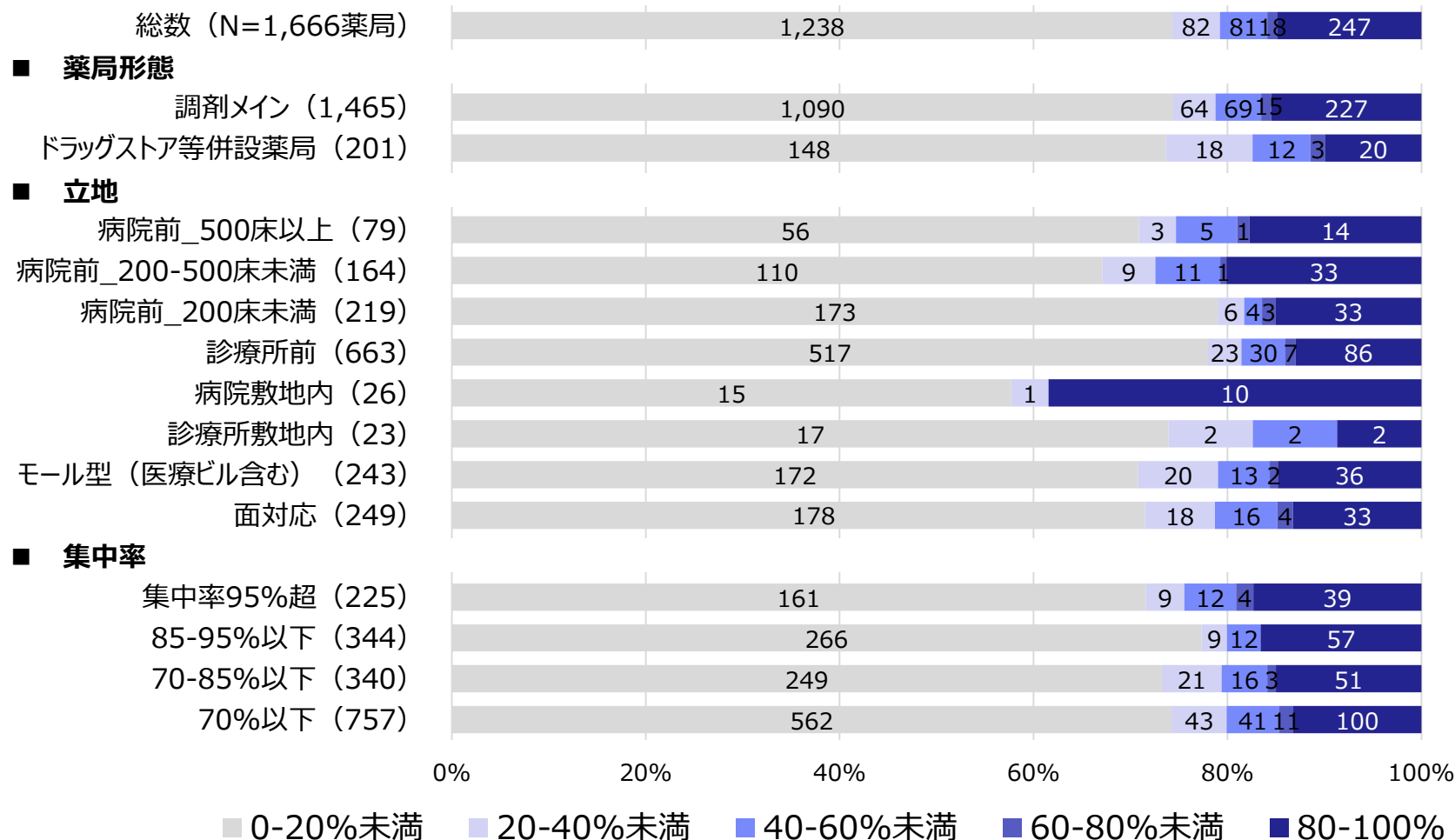
問. 2022年4月からこれまでのリフィル処方箋応需のうち、「1回目は応需したが2回目、3回目の応需がなかった」おおよその割合を教えてください



「1回目応需なし・2、3回目応需」×薬局形態・立地・集中率

リフィル1回目は応需していないが2、3回目を応需した割合に関して、「病院敷地内」「病院前_200-500床未満」「病院前_500床以上」において若干高い結果となった。

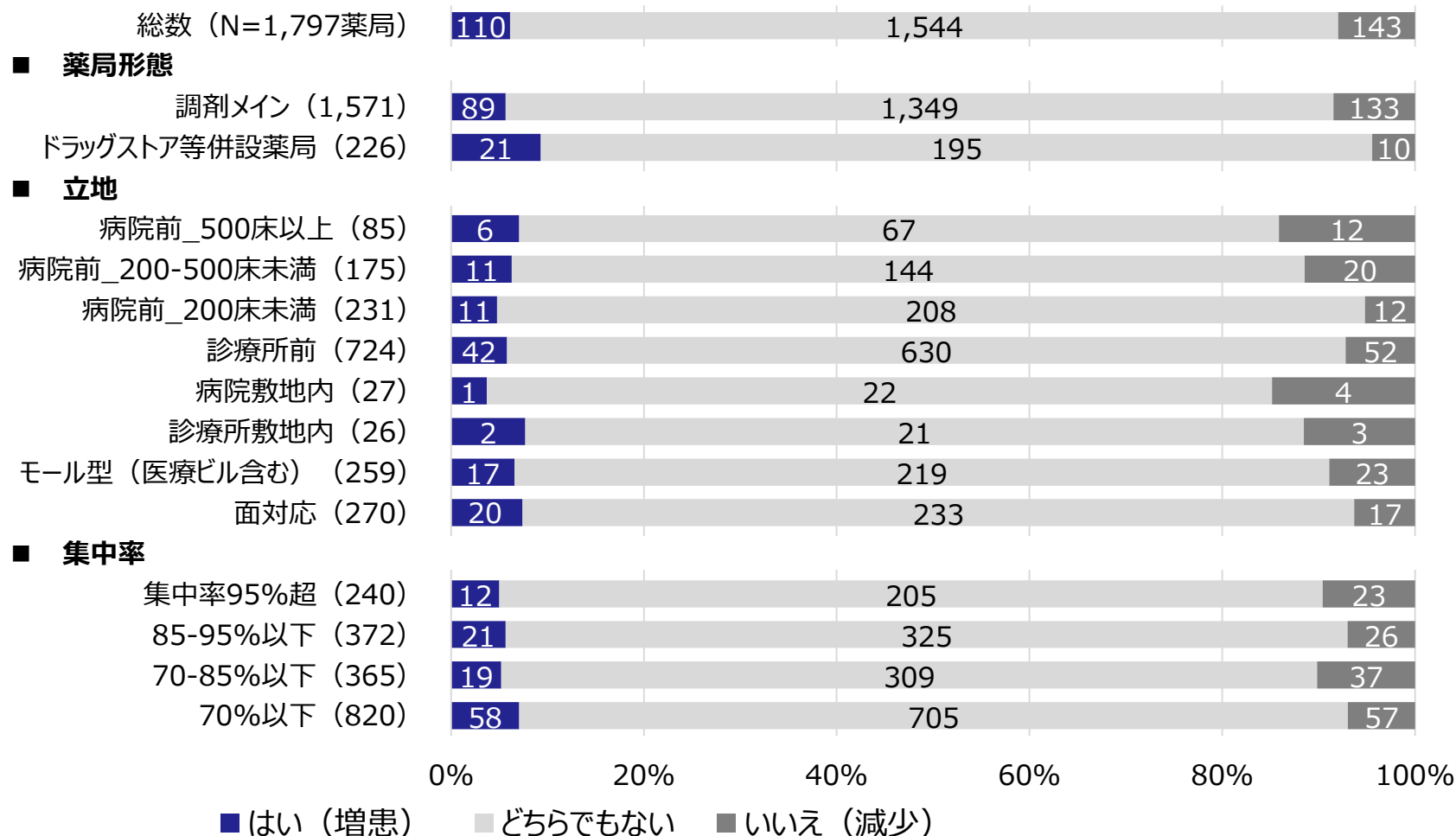
問. 2022年4月からこれまでのリフィル処方箋応需のうち「1回目は応需していないが2回目、3回目を応需した」およその割合を教えてください。



増患or減少×薬局形態・立地・集中度

リフィルが増患につながるか否かについて、「ドラッグストア等併設薬局」「面対応」「集中度70%以下」といった属性において、若干ではあるが増患が減少の回答を上回った。

問. 貴店においてリフィル処方箋は増患につながりますか？ (N=1,797薬局)

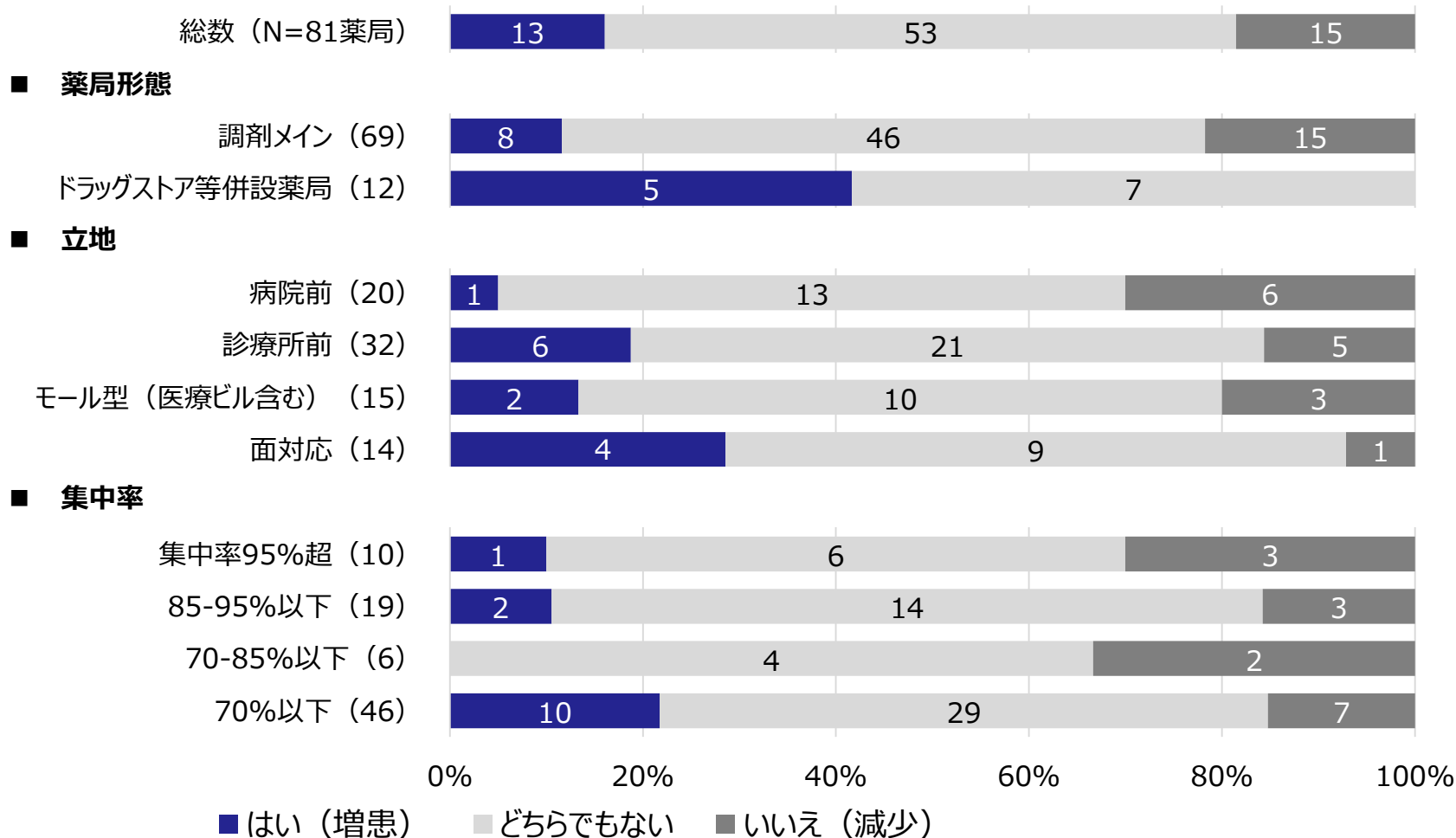


(参考) 22/10月単月実績が10件以上であった薬局のみ抽出

増患or減少×薬局形態・立地・集中度

(参考) 月10件以上の実績があった薬局では、「ドラッグストア等併設薬局」「面対応」「集中度70%以下」といった属性において、増患が減少の回答をよりはっきりと上回った。

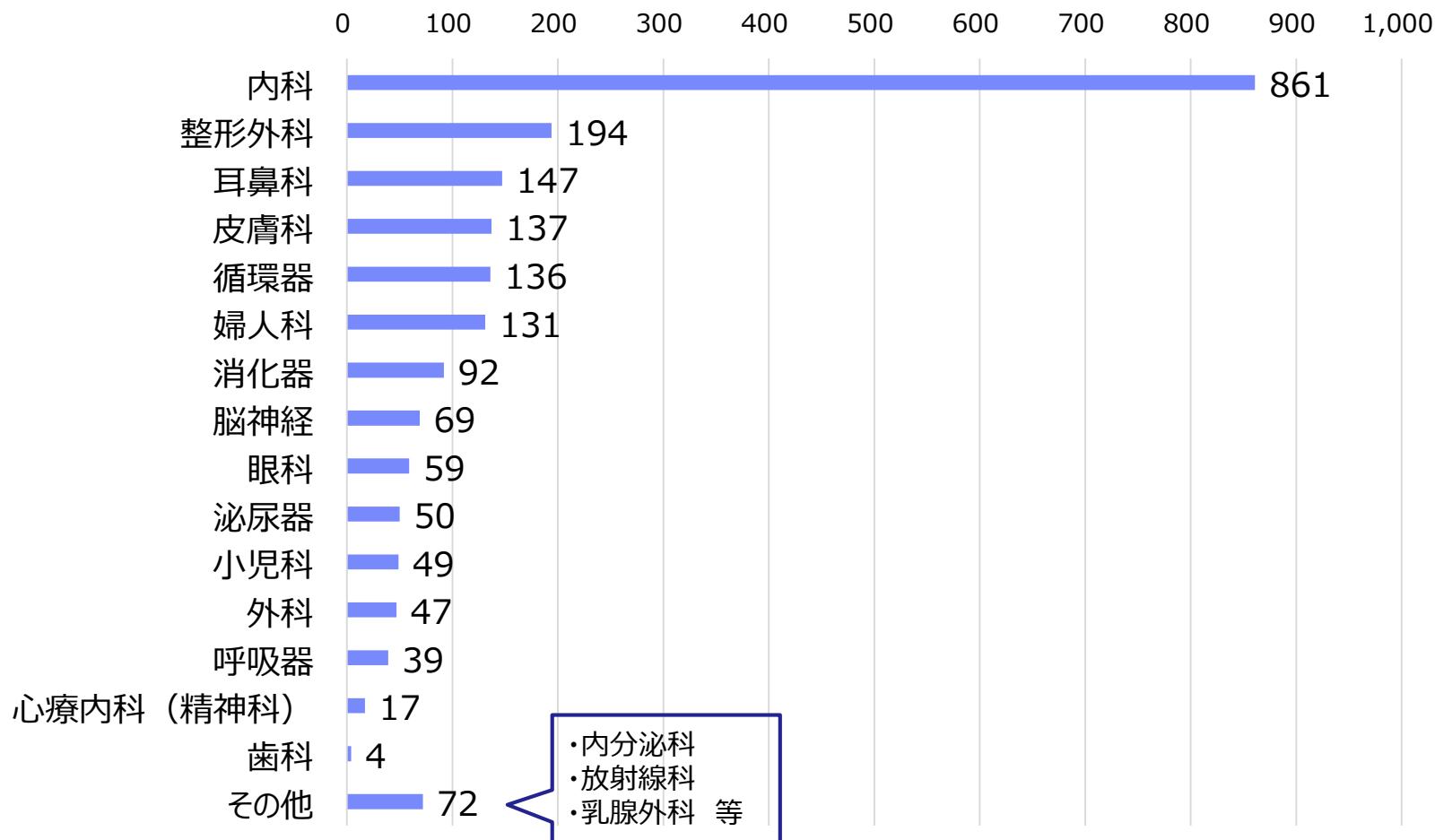
問. 貴店においてリフィル処方箋は、増患につながりますか？ ※22/10月単月実績が10件以上であった薬局のみ抽出 (N=81薬局)



診療科の傾向

リフィル処方箋が多い診療科についての回答は、「内科」が突出して多く、次いで「整形外科」「耳鼻科」「皮膚科」「循環器」の順で回答が集まった。

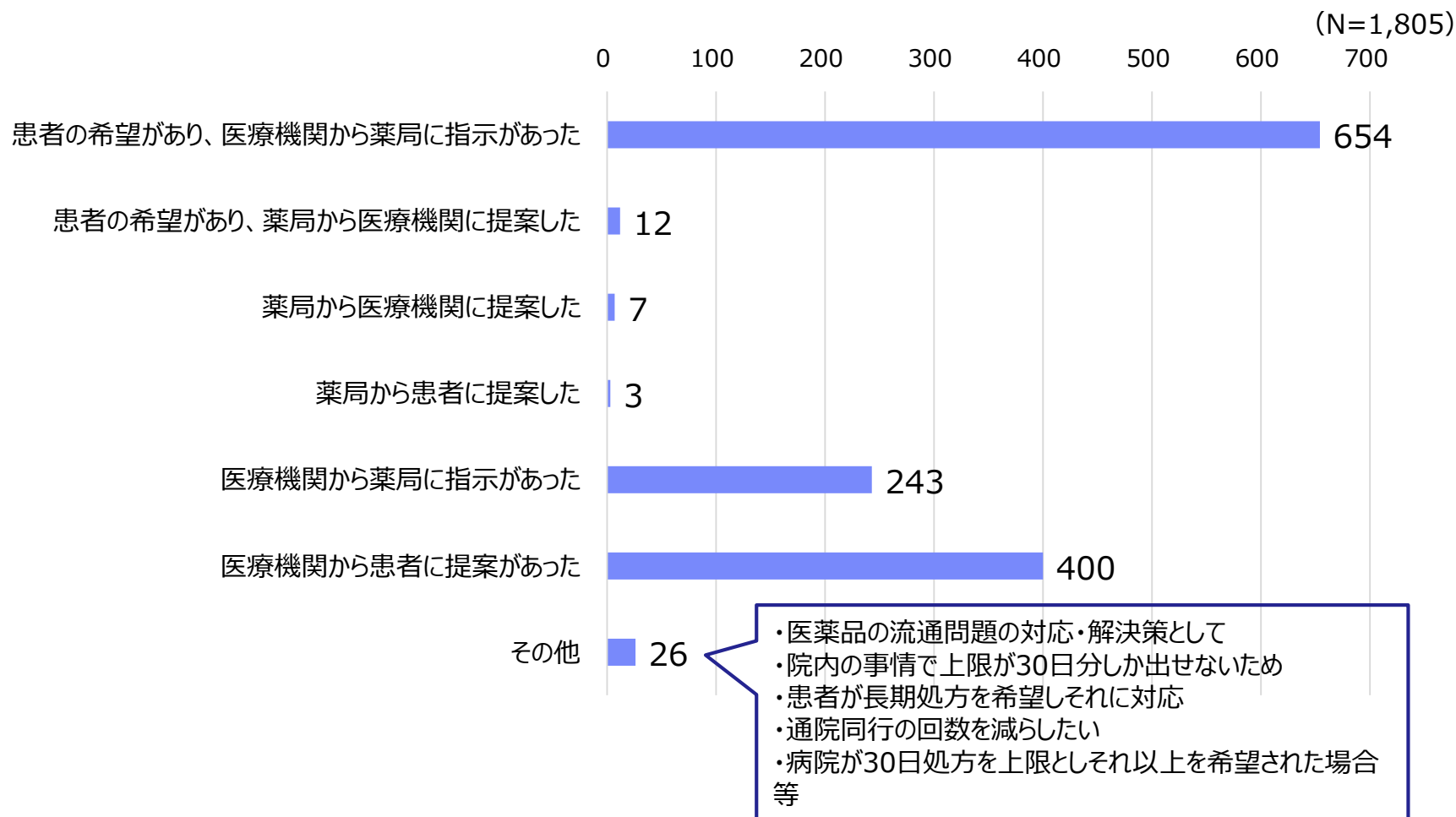
問.リフィル処方箋が多い診療科について教えてください。（複数選択する場合は3つまでとしてください）（N=1,728）



切っ掛け

リフィル処方箋発行の切っ掛けとして「患者の希望があり、医療機関から薬局に指示があった」「医療機関から患者に提案があった」「医療機関から薬局に指示があった」という回答が大部分を占めた。

問.リフィル処方箋発行の切っ掛けとして最も多いものを教えてください。



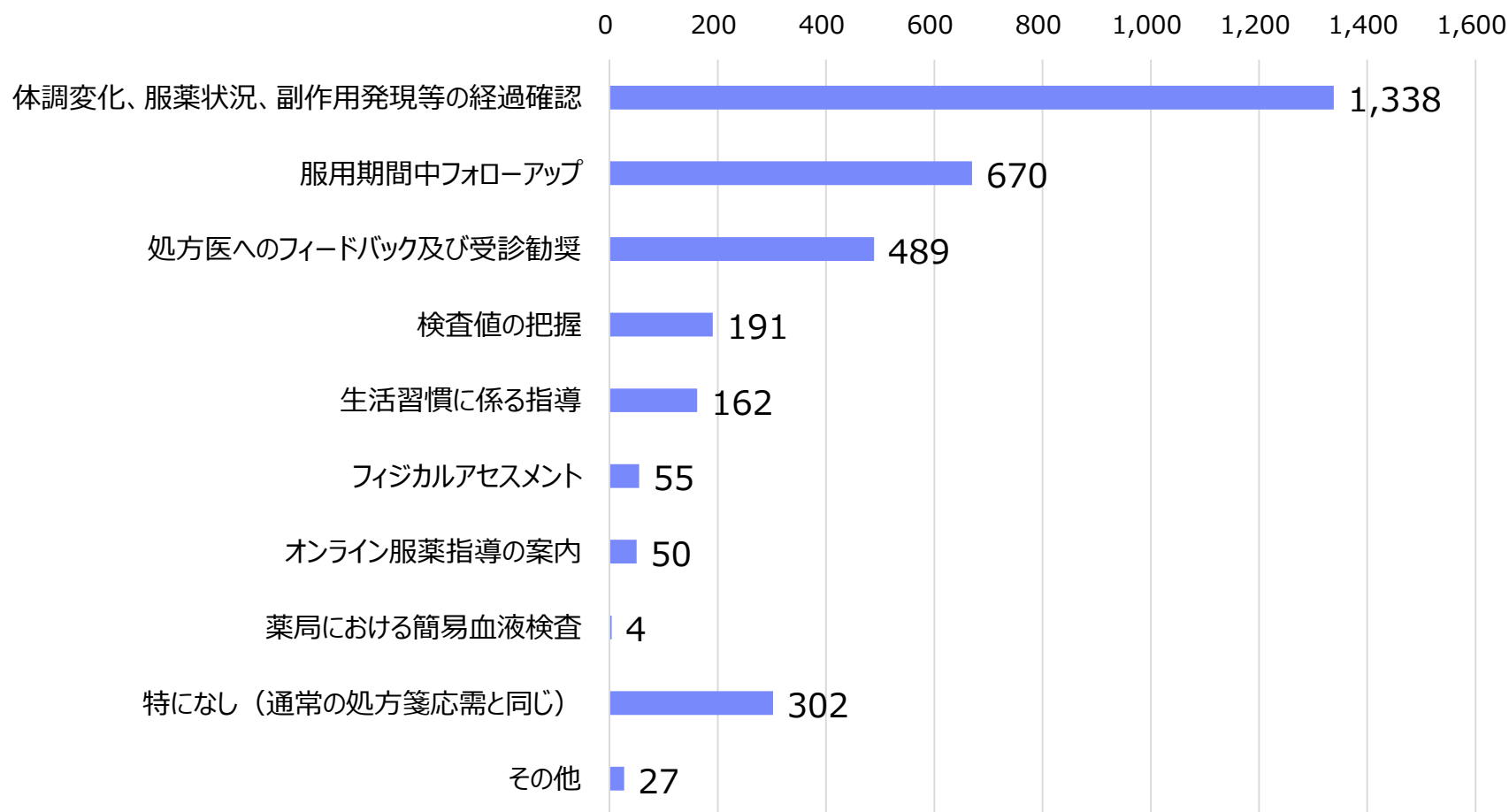
薬局薬剤師の対応

- 意識して取り組んでいる対応
- フォローアップとフィードバックの頻度
- フォローアップの内容
- フィードバックに関する取り決め
- 好事例、困った事例
- 業務負担
- 処方箋の管理

意識して取り組んでいる対応

リフィル応需の場合に意識して取り組んでいる対応として「経過確認」「フォローアップ」「フィードバック及び受診勧奨」の回答が多かった。一方で、「通常の処方箋応需と同じ」との回答も次いで多かった。

問.通常の処方箋応需と比べて、リフィル処方箋を応需した場合に「より意識して取り組んでいる対応」があれば教えてください。（複数回答可）（N=1,822薬局）



意識して取り組んでいる対応（その他）

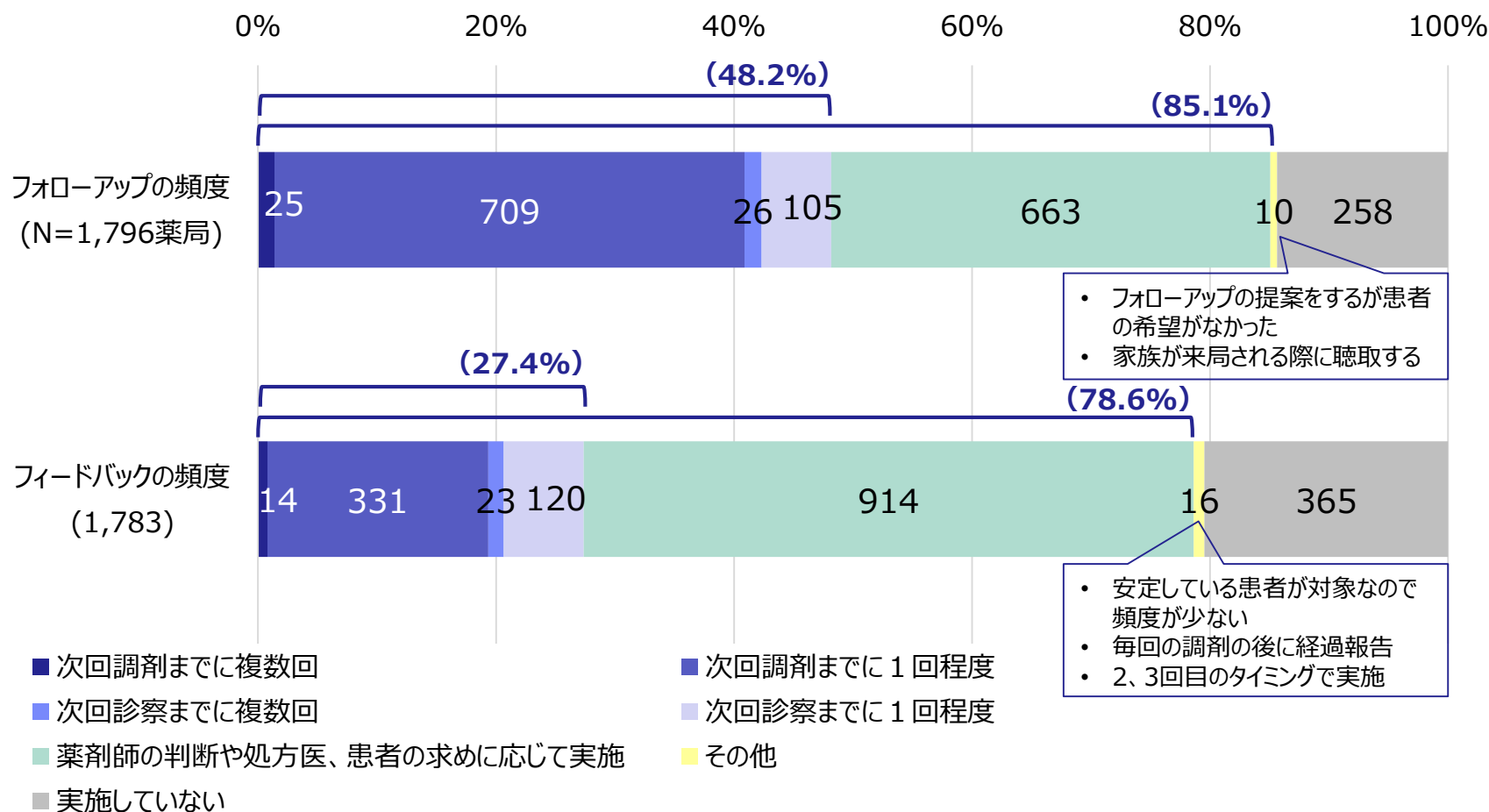
その他、意識して取り組んでいる対応として、調剤可能期間の説明や、処方箋紛失の注意喚起といったコメントが複数あげられた。

- 調剤可能期間の案内の徹底
- リフィル処方箋の期限
- システム、使用期限の説明
- 患者様への次回来局日のご案内をしっかりと行う
- 次回来局についての説明
- 次回来局予定時期
- 2回目、3回目の期限切れにならないよう声掛け
- 処方内容の塗布剤がなくなる頃に、薬局への来局の時期のお知らせ電話
- 次回来局や次回受診の予定確認や、患者が処方箋をなくさないことなどへの注意喚起
- 次回利用時に処方箋をなくさないように案内すること
- 使用方法含め正しい使用ができているのかの確認
- 服薬フォローを実施 服薬、状態確認
- 体調変化ないかテレホントレースを行い医療機関へ情報提供する
- 副作用等発現の可能性があればリフィル処方の中止も検討
- 食事・運動療法
- 1回目に他薬局で応需していた場合、指導後に薬局間連携を目的に報告をした
- 保管方法や薬歴などへの記載事項など

フォローアップとフィードバックの頻度

リフィル応需の際に服用期間中フォローアップを実施している薬局は85.1%、定期実施している薬局は48.2%であった。同様に医療機関（処方医）へのフィードバックに関してはそれぞれ78.6%、27.4%であった。

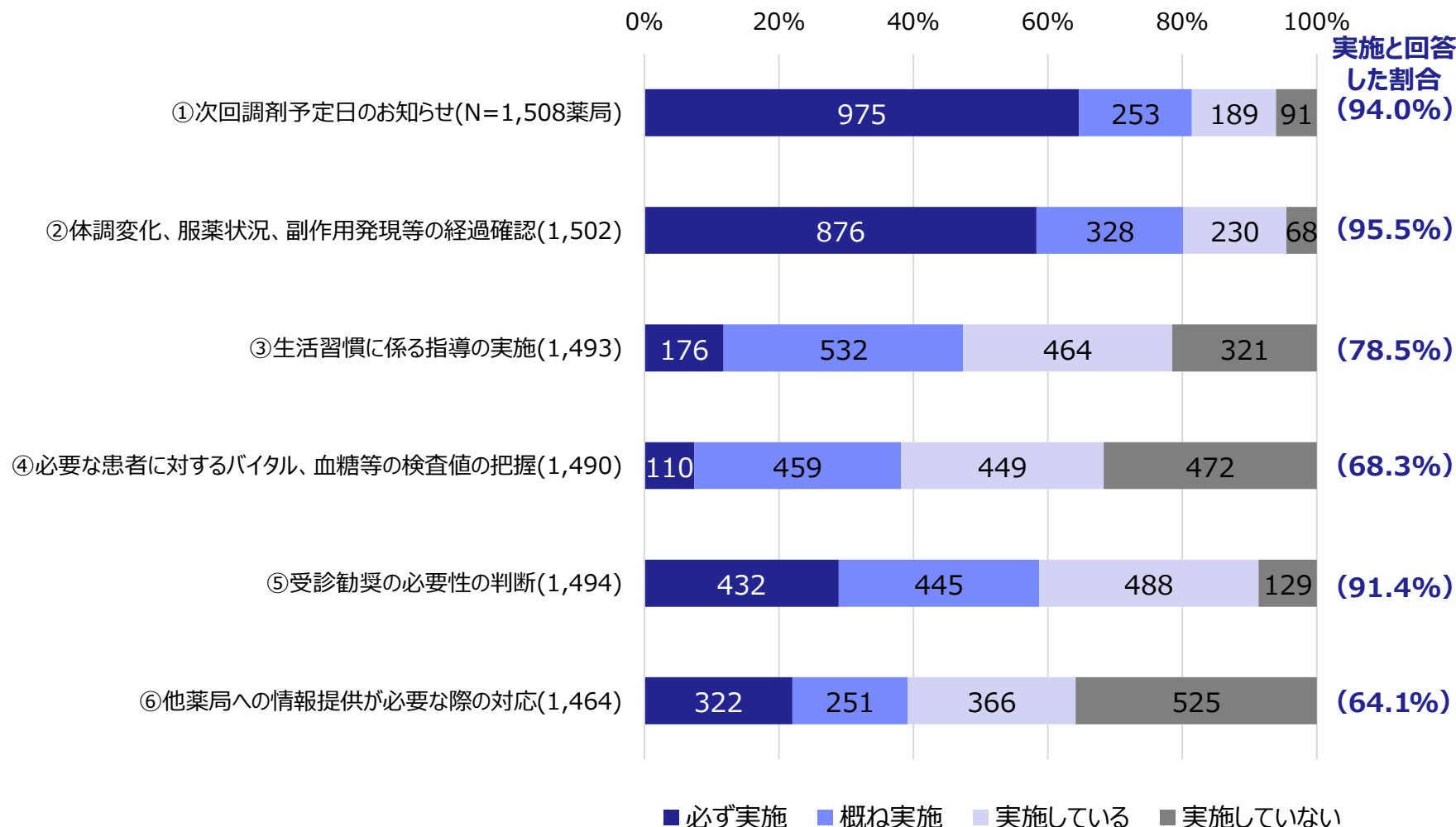
問.「服用期間中フォローアップ」、「医療機関（処方医）へのフィードバック」の実施及び頻度として貴店の対応に近いものをご選択ください。



フォローアップの内容

フォローアップの内容としてすべての項目に関して実施と回答した割合が6割を超える結果となった。中でも「経過確認」「次回予定日のお知らせ」「受診勧奨の必要性判断」に関しては9割を超えており、意識の高さが伺える結果となった。

問. フォローアップを実施した際の指導、確認の内容について



フォローアップの内容（その他）

その他のフォローアップ内容として、次回受診・調剤予定日の確認・連絡や、医療機関への情報提供、薬局間連携についてのコメントがあげられた。

■ 次回調剤予定日のお知らせについて

- ・ 来局予定日のリマインド電話 /・次回受診予定日のお知らせ
- ・ フォローアップを兼ねて次回調剤予定日のアナウンス /・次回予定リフィル日のメモを渡している
- ・ 次回来局予定日については投薬時に薬袋に記載する。また一週間前くらいにフォローアップして次回来局予定日をお伝えしている
- ・ 期限切れ時(リフィル処方期限過ぎてから来局された時)の対応が分からない為、期限内に来局いただくよう、具体的な来局日を確認するようにしている
- ・ 【リフィル処方せんご利用の皆さまへ】のリーフレットをお渡ししている

■ 服用期間中のフォローアップやフィードバックについて

- ・ 予定日から7日以内が近づくのを忘れてないか症状の変化がないかの確認の電話はする
- ・ 服薬コンプライアンス確認、残薬数の確認
- ・ まだリフィル自体の件数が少なく、応需したのが最近であるが、服薬フォローなどは必要に応じて実施していく
- ・ 医療機関への情報提供 /・処方医への情報提供 /・処方元に必ずトレースレポートを提出
- ・ 投与量調整が必要と判断した場合は薬剤情報提供を用いて報告
- ・ 家族へのフォロー、サポート

■ 薬局間連携について

- ・ 2回目、3回目の受付の際、1回目調剤の薬局に応需した旨を報告している
- ・ 最近他薬局からの情報提供があり、役に立ったため今後はこちらでも他薬局への情報提供を適宜行う予定
- ・ 2回目以降別の薬局に行く場合、予定の薬局の聴取ができれば連携することになっている

フィードバックに関する取り決め

フィードバックのタイミングや、フィードバック、受診勧奨する基準等について医療機関と取り決めがあると回答が得られた。

問.フィードバックに関して医療機関（処方医）と取り決めがある場合はその内容をご紹介ください

■ フィードバックのタイミングについて

- ・調剤する毎に情報提供書によってフィードバックを行う /・受診時以外は毎回、情報提供書を提出
- ・2回目、3回目の応需をした際は必ず報告する取り決めがある
- ・リフィル2回目、3回目の投薬時の情報を毎回必ずフィードバックする取り決めがある
- ・2、3回目調剤時、情報提供書の提出
- ・2回目と3回目調剤後に文書にてフィードバックをすることになっている
- ・2回目、3回目の際、体調・残薬等の確認。 /・2回目来局された時の日付と経過を報告
- ・リフィル処方箋を持参された際は薬局で服薬状況を確認しトレーシングレポート提出

■ フィードバック、受診勧奨する基準について

- ・処方医の確認したいこと、受診推奨する基準をあらかじめ確認して情報提供書にてフィードバックしている
- ・症状の悪化、慢性副鼻腔炎の症状の発症等の場合にフィードバックし受診勧奨する
- ・体調の変化など顕著な変化や報告が必要と思われる事項がなければ、病院へのフィードバックは不要と取り決め
- ・特に問題があった場合は情報提供 /・残薬等の情報は不要とのこと
- ・次回診察前に所定のフォーマットにてフィードバックを行う取り決めがある
- ・特定医院では次回診療前にトレーシングレポートにてフィードバックを行う取り決めがある
- ・頓服薬での発行もあるため次回以降の来局日について共有
- ・必要と判断したら薬局指定のフォーマットのトレーシングレポートにて提出
- ・所定のフォーマットにてフィードバックを行う取り決めがある
- ・特定の先生はメールにてトレーシングレポートを送付している /・FAX利用

好事例

服用中の体調変化や、経過の悪化、副作用の疑いのある患者に対して、受診勧奨を行った事例が複数報告された。

問.リフィル処方箋応需に係る薬局薬剤師が介入した受診勧奨事例や、その他好事例がありましたらご紹介ください

■ 受診勧奨した事例

- ・ 糖尿病患者がリフィル2回目調剤前に体調不良を訴えたため、処方医に連絡しリフィル中止となり受診となった。
- ・ スギ花粉症の減感作療法のリフィル処方箋を応需。体調不良のため自己中断していたと聴取し処方元医療機関へフィードバックしたところ、再診指示あり初期量からの再開となった。
- ・ リフィル開始後、睡眠の不安定さや家族の逝去による不安増加等の諸症状があった患者に受診勧奨し、その後の体調は安定している
- ・ 頭痛、黄色い痰の悪化が出たため受診勧奨し、お礼の言葉をいただいた
- ・ リフィル反復利用来局時に体調変化の訴えがあったため受診勧奨し受診予約するに至った
- ・ 副作用の疑いのある患者に対し受診勧奨した

■ 医療機関へのフィードバック事例

- ・ 残薬がたまってきたため、次回以降のリフィル処方箋から該当薬を除外するよう提案した
- ・ 残薬調整
- ・ 次回の予定日のお知らせとしてフォロー連絡くれて助かると感謝された
- ・ 患者が診察時間に限らず調剤できるので喜んでいるケース多い。
- ・ 患者待ち時間軽減で喜んでいる
- ・ 体調が問題ないことや残薬があることを医療機関に伝えることができた
- ・ 服薬状況や体調変化などのトレーシングレポートを感謝された
- ・ 医師への電話での経過報告、文書での経過報告
- ・ トレーシングレポート送った際に次回診察時に確認していると先生から返答をいただいた

困った事例

困った事例として、リフィル制度の理解不足もあり、処方箋の取扱いや管理、次回調剤予定日の説明、記載不備による疑義照会の増加といった負担についてのコメントが多かった。

問.リフィル処方箋応需に係る困った事例がありましたらご紹介ください

■ 患者対応に係る事例

- ・次回来局期間内に患者が来局しない、期限確認の電話や期限超過の場合の対応等が負担になっている（24件）
- ・患者がリフィル処方箋を紛失する。紛失した場合の対応が難しい（23件） / ・患者が十分に仕組みを理解していない、説明に時間がかかる（8件）
- ・次回来局日や受診日の把握や管理が大変（5件） / ・リフィル欄に二重線などが記載されていない場合は患者が記載してしまう可能性があり心配（4件）
- ・服薬後フォローが実施できない、断られる（3件） / ・認知機能が低い方へのリフィル処方（2件）
- ・90日処方が30日分のリフィル 3 回になり来局が増えた場合などに、患者がリフィル処方可否的な場合がありクレームを受けた（2件）
- ・分割調剤指示だった方がリフィル処方箋に変更となり、処方内容は同じなのに負担額がかなり増えてしまっってクレームとなってしまった
- ・処方箋を預かってくれと言われると困る / ・服用期間中に副作用等で中断する必要が生じた際の適切な対応

■ 医療機関に係る事例

- ・外用剤だけの場合の日数など、リフィル処方箋の記載不備が多く、疑義照会が増えた（18件）
- ・医師や医療機関の仕組みの理解と薬局との認識の齟齬があった（11件） / ・残薬調整の方法について不明点があり難しい（9件）
- ・リフィル可能な医薬品と不可医薬品を分けて対応することの煩雑さや疑義照会（6件）
- ・1回目の疑義照会の内容を2回目も継続していいかどうかなど、疑義照会について不明点がある（4件）
- ・医療機関や1回目応需薬局からの患者への説明が不十分（4件） / ・面応需のためフィードバック方法を医療機関ごとに確認する必要がある（4件）
- ・患者がリフィル処方ということを失念して2回目のタイミングで病院を受診しリフィル処方が重複して発行されてしまう（3件）
- ・医師がリフィル処方であることを失念して、本来2回目のリフィルのタイミングで次回受診日を設定してしまいリフィル処方が重複して発行されてしまう（3件）
- ・臨時処方（風邪など）にてDr.より患者へ「1回目で症状落ち着いたらそれ以降もらわなくていい」と、目的と乖離したリフィル処方箋が見受けられる（3件）
- ・医師が本来リフィルではないところ誤ってリフィル処方箋を発行（2件） / ・医療機関で服薬情報は受け入れていないと回答された
- ・体調や症状が安定しているというよりは体調が悪いので受診回数を減らしたいため、内服薬が変更となってもリフィルで90日×3で処方する医療機関がある
- ・患者の意向の有無問わずはじめからリフィル可の欄に斜線が引かれていると思われる処方箋がある
- ・処方医との良好な関係を崩しかねない為、積極的に周知できない / ・出荷規制品の大量処方や長期服用が不適な薬の長期処方
- ・2、3回目リフィル処方箋持ち込み日がクリニック閉院日に当たり、疑義照会や問合せが即日行えない場合がある
- ・途中で予約日が後ろに延びた場合でもリフィルでは処方日数の延長は認められず足りなくなりそうな事例があった
- ・耳鼻科の難聴の処方箋について聴力検査をせずに自覚症状のみでリフィルまたは受診勧奨の判断は困難

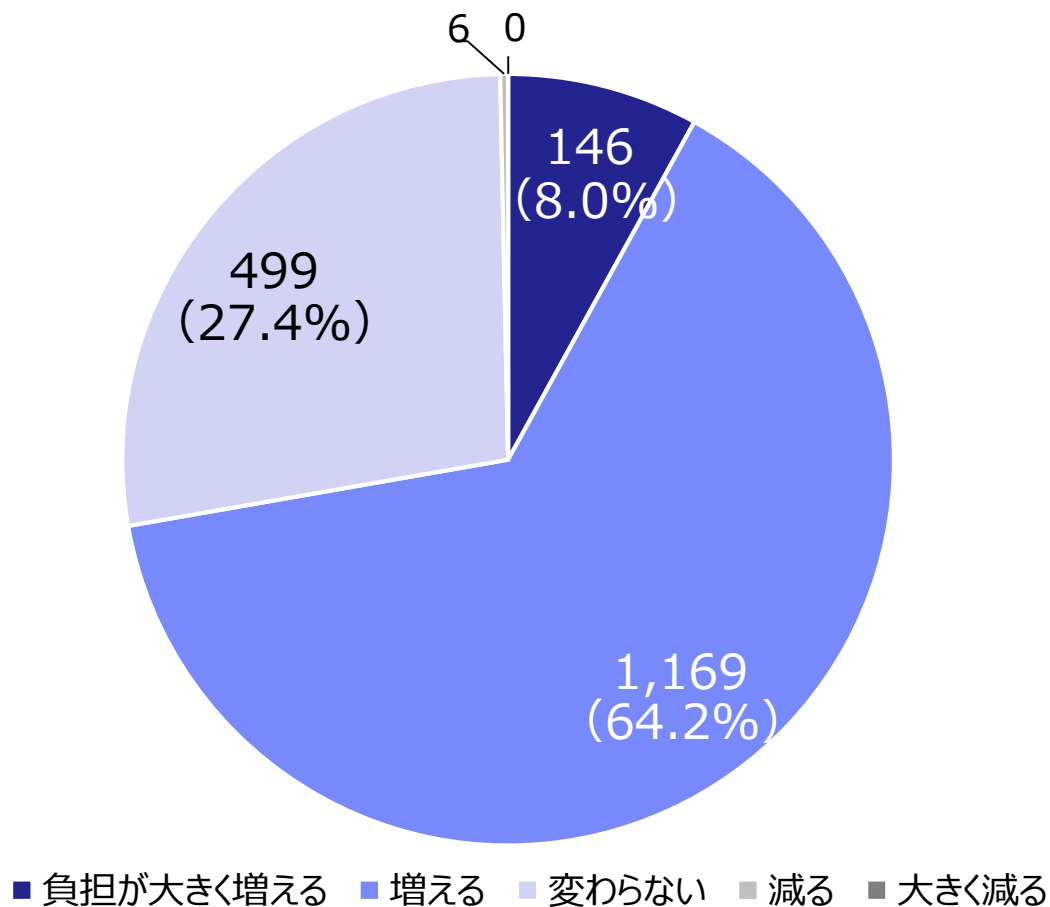
■ 薬局内・薬局間での対応に係る事例

- ・「リフィル可」の欄が小さく、わかりにくい、全処方箋で確認するのが負担（24件） / ・通常の処方箋に比べて煩雑、手間がかかる（10件）
- ・週1回や月1回の製剤の場合など、次回予定日や全体の処方日数を決めることが難しい（7件）
- ・リフィル1回目と2～3回目などで薬局が異なる場合に、他薬局との連携が不十分（7件）
- ・面で応需した場合に、普段調剤していない薬品のため欠品する。出荷調整の影響などもあり、在庫確保などの対応が難しい（5件）
- ・保険適応や負担割合が変わった場合の対応（3件） / ・2回目以降も基本的には同じ薬局で調剤が望ましいことが患者に伝わっていない（2件）

業務全体の負担

リフィルを応需した場合に「負担が大きく増える」「増える」の回答が72.2%を占めた。

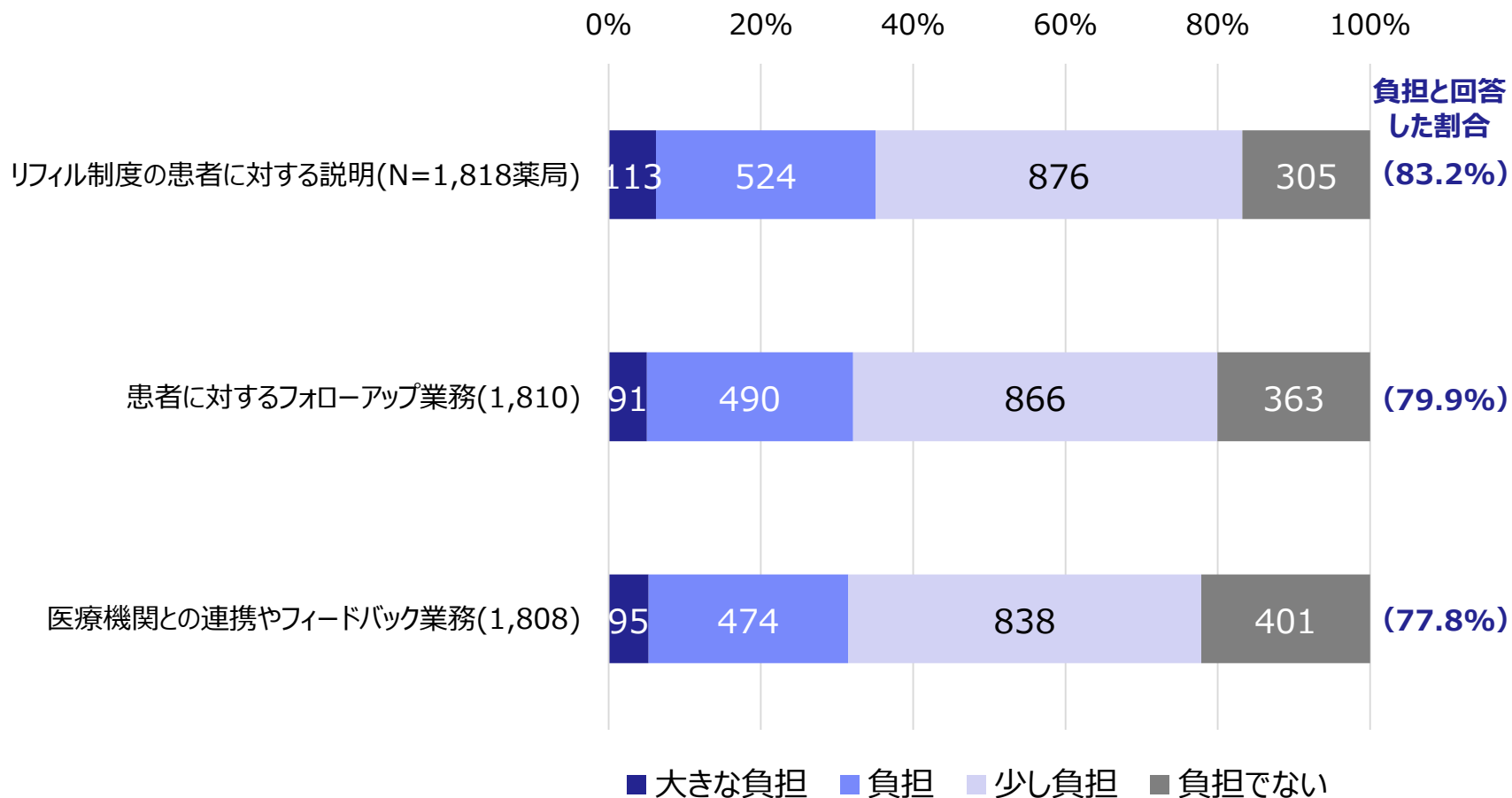
問.通常処方箋応需と比べて、リフィル処方箋を応需した場合に、薬局業務全体として負担について教えてください。
(N=1,820薬局)



各種業務負担

リフィル応需に伴う「患者に対する説明」「フォローアップ」「フィードバック」の業務に関して、約8割の薬局が少なからず負担はあるという結果であった。

問. リフィル処方箋を応需した際の、各種業務への負担について



業務負担（その他）

その他負担となっている業務としては、次回調剤予定日、フォローアップ予定日等のスケジュール管理や連絡対応、全処方箋に対するリフィル欄の点検作業をあげる意見が多かった。

問.その他、負担となっている業務がありましたら教えてください

■ 患者対応に係る業務

- ・ 次回来局予定日、フォローアップ日や受診日の計算・管理および連絡対応（19件）
- ・ リフィルに関連した、患者に対する説明（6件） /・リフィル処方箋で時間がかかって患者からクレームが来た
- ・ リフィルを受け付けると通常の処方箋より鑑査に時間がかかる。患者様にお伝えする項目が増える。

■ 医療機関に係る業務

- ・ 外用剤の日数など、記載不備に対する疑義照会（2件）
- ・ 病院側のリフィルに対する理解が乏しく、苦労が多かった。話し合いを行い少しずつ改善している
- ・ 患者様の理解と同意を得ていないのにかわらずリフィルにされていることもある
- ・ リフィル処方せんによる調剤2、3回目実施時の医療機関へのフィードバックについて、フィードバック方法やFAX番号の確認を各医療機関ごとに実施せねばならず、面受付の薬局ではやや負担に感じることがある。備考欄や余白などにフィードバック方法の記載があると医療機関・薬局双方の負担軽減になるのでないだろうか

■ 薬局内の業務

- ・ 全ての処方箋に対して、リフィル欄の点検を行い、リフィルか否か判別する作業（8件）
- ・ 処方箋コピーの保管（5件） /・応需経験が少なく、不慣れであることによる負担やスタッフへの制度の周知（5件）
- ・ 次回来局日のお知らせなどの文書作成（4件） /・在庫管理（2件） /・手間がかかる /・配送、梱包業務
- ・ 通常発行の処方箋とリフィル処方箋の同時受付の際、レセコンの都合上入力を分けなければならない点
- ・ 処方箋の預かりが増えてくると預かった処方箋の管理が負担になると思う

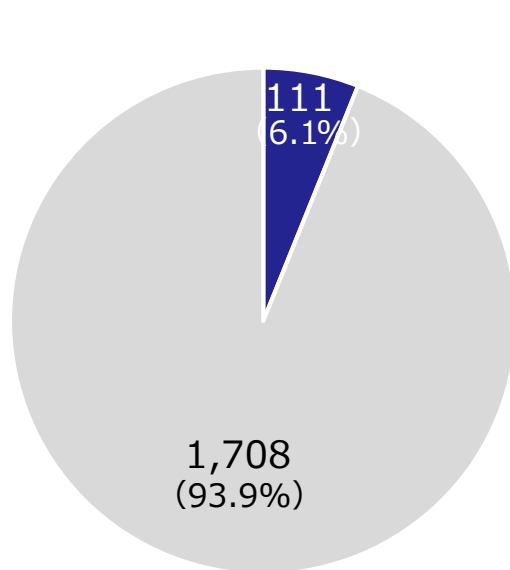
■ その他

- ・ 運用方法に誤りがないかを確認するのが精一杯で、良さを実感できていないのが現状
- ・ 薬局の業務は確かに増えるが患者負担減を考えると特に負担には感じない /・薬剤師として職分の広くなるメリットしか感じない
- ・ 長期投薬して途中フォローするのでよいのではないかと思う
- ・ フォローアップの件数や情報提供の件数を数値化されて何件していないといけないなどと義務化されることが負担。以前なら文書ではなく電話などでやり取りしていたものも貴重な1件と思い、文書化することで手間と時間がかかるようになった

処方箋の管理

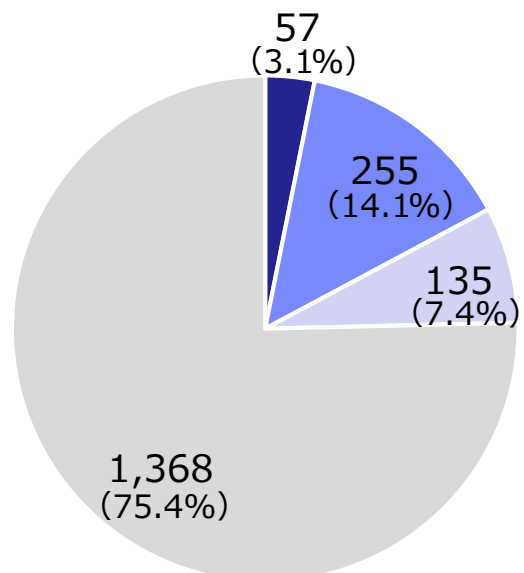
原則、リフィル処方箋を患者に返却している薬局が大半を占めているが、一方で、リフィル処方箋を紛失した事例や、薬局預かりを希望する患者も一定数いることから、薬局において臨機応変な対応が求められている。

問.これまでに患者がリフィル処方箋を紛失した事例はありますか？
(N=1,819薬局)



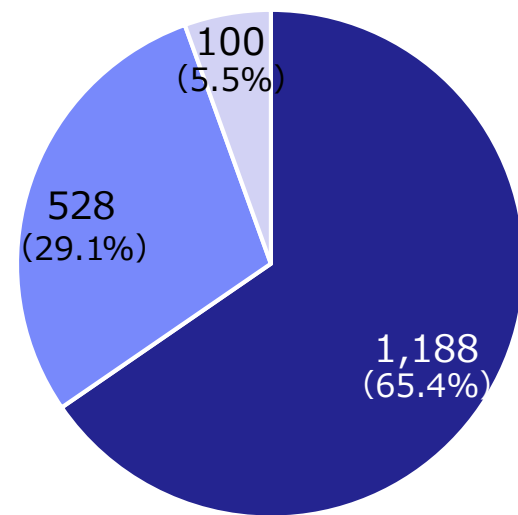
■ ある ■ ない

問.これまでに患者にリフィル処方箋を薬局にて預かってほしいとお願いされたことはありますか？ (N=1,815薬局)



■ よくある ■ ある ■ たまにある ■ ない

問.リフィル処方箋の管理に係る貴店の対応に近いものを選んでください。
(N=1,816薬局)

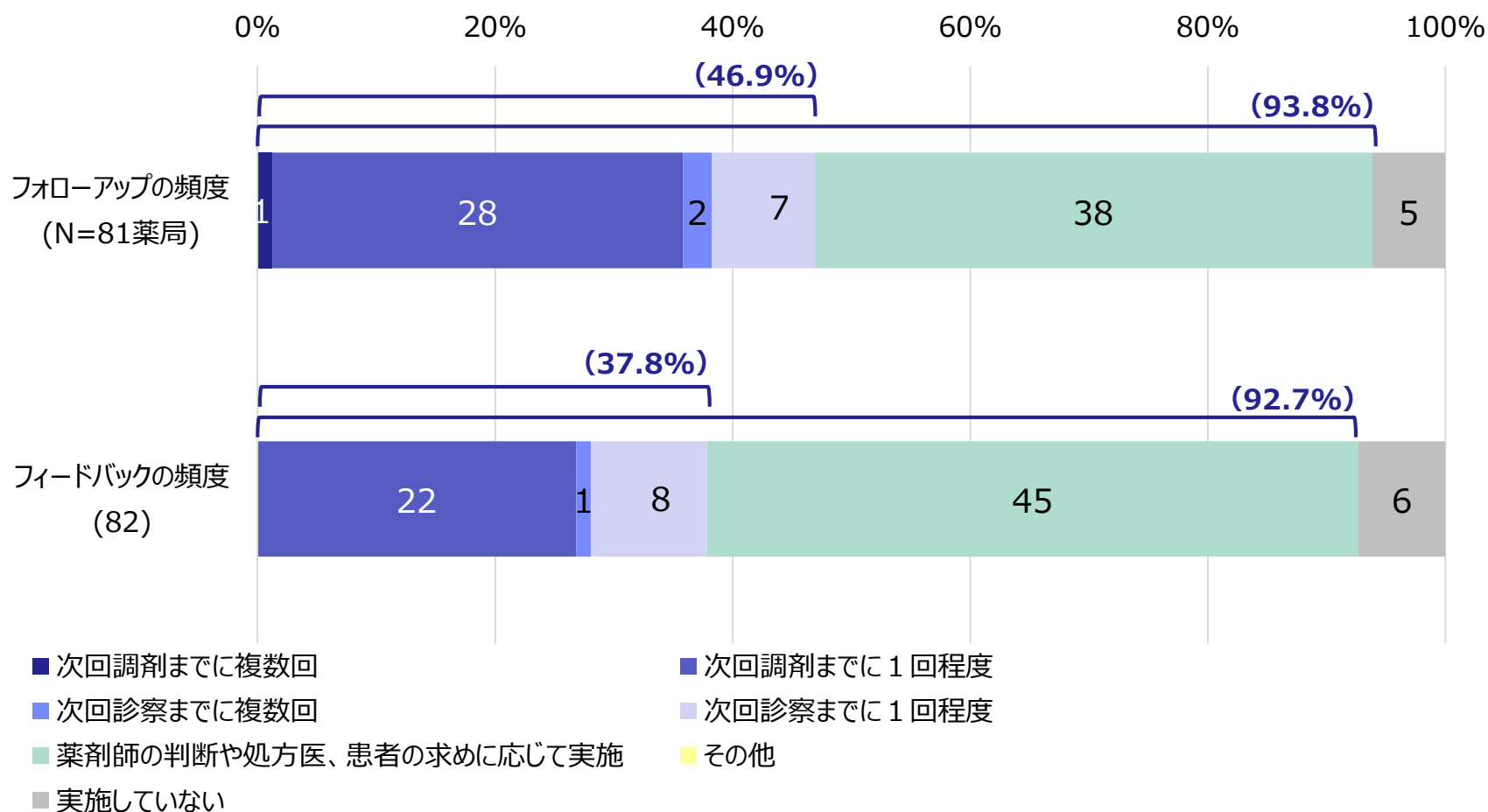


■ 必ず患者に返却
■ 患者の希望があれば預かる
■ 処方箋紛失リスクを説明して薬局預かりを推奨

フォローアップとフィードバックの頻度

(参考) 月10件以上の実績があった薬局では、リフィル応需の際に服用期間中フォローアップを実施している薬局は93.8%、定期実施している薬局は46.9%であった。同様に医療機関（処方医）へのフィードバックに関してはそれぞれ92.7%、37.8%であった。

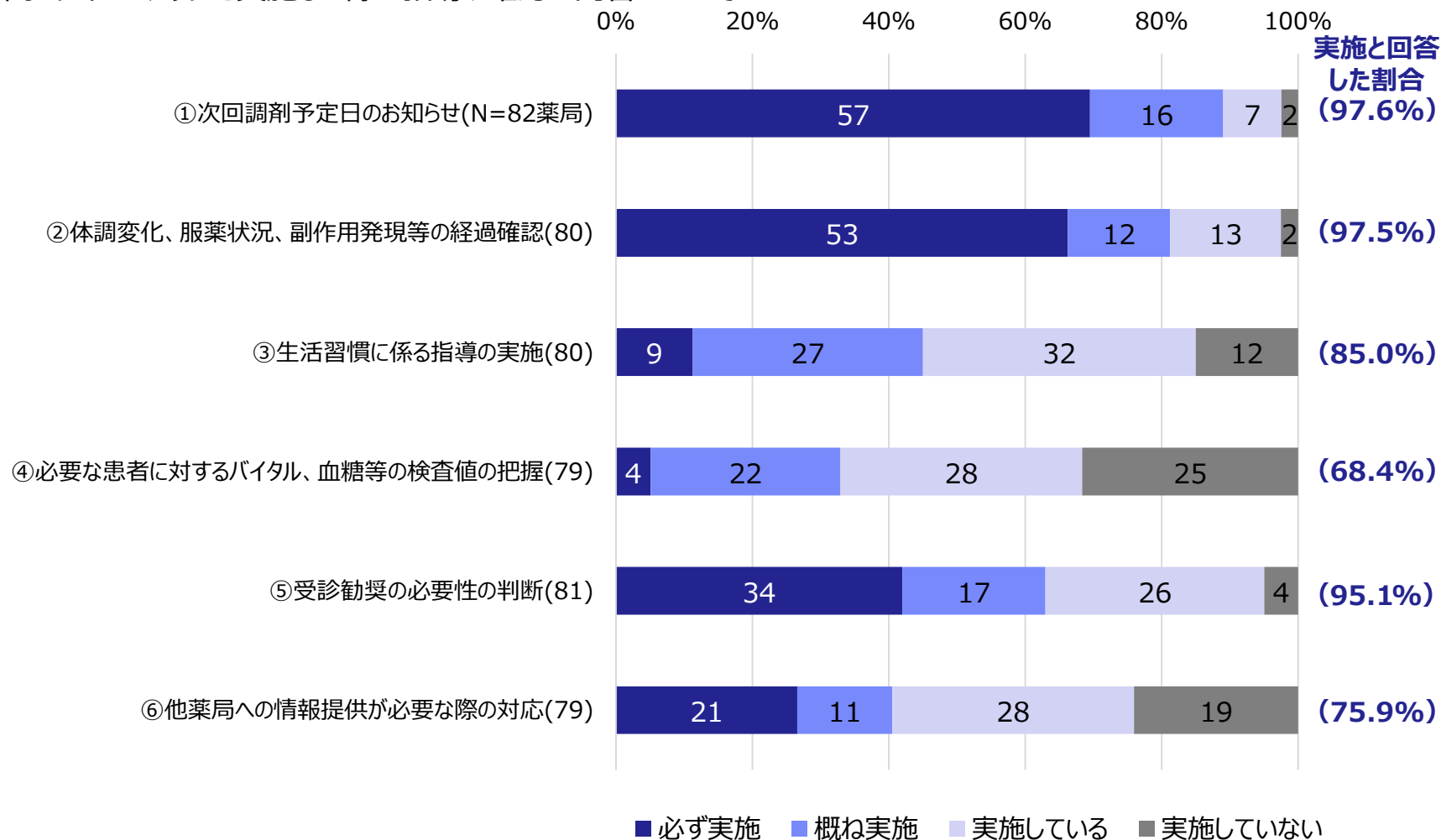
問. 「服用期間中フォローアップ」、「医療機関（処方医）へのフィードバック」の実施及び頻度として貴店の対応に近いものをご選択ください。



フォローアップの内容

(参考) 月10件以上の実績があった薬局では、フォローアップの内容としてすべての項目に関して実施と回答した割合が6割を超える結果となった。中でも「経過確認」「次回予定日のお知らせ」「受診勧奨の必要性判断」に関しては9割を超えており、意識の高さが伺える結果となった。

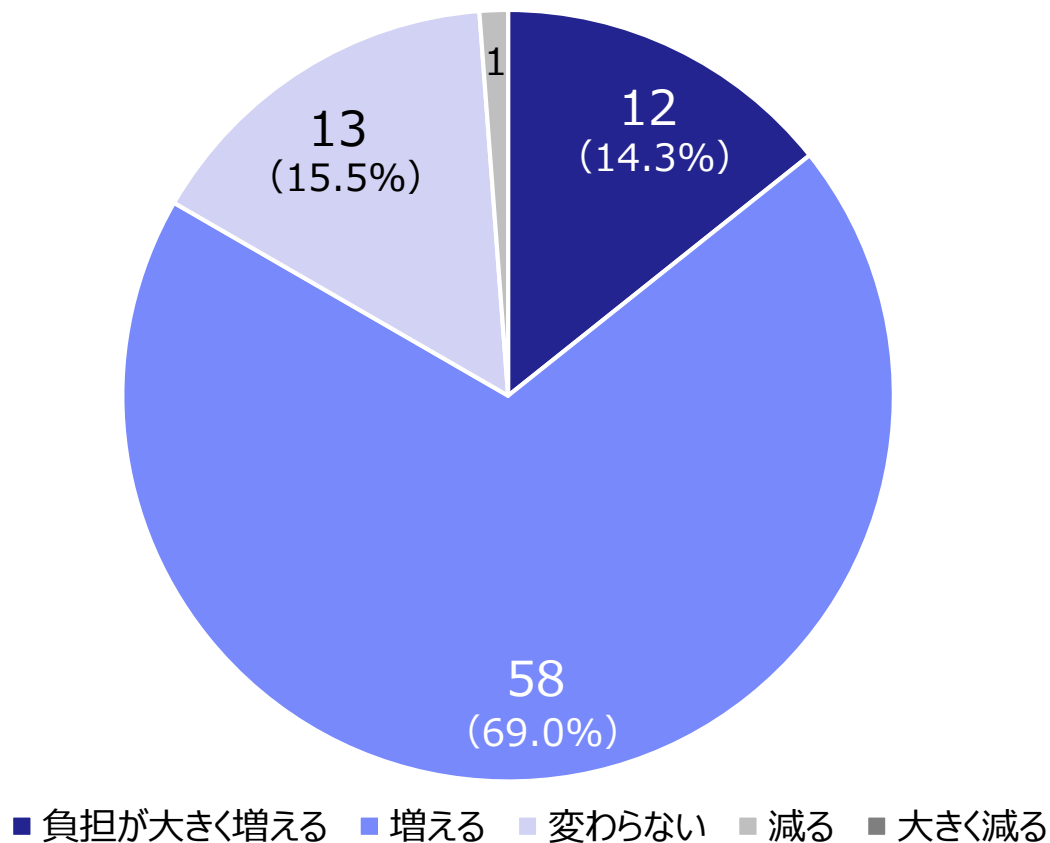
問. フォローアップを実施した際の指導、確認の内容について



業務全体の負担

(参考) 月10件以上の実績があった薬局では、リフィルを応需した場合に「負担が大きく増える」「増える」の回答が83.3%を占めた。

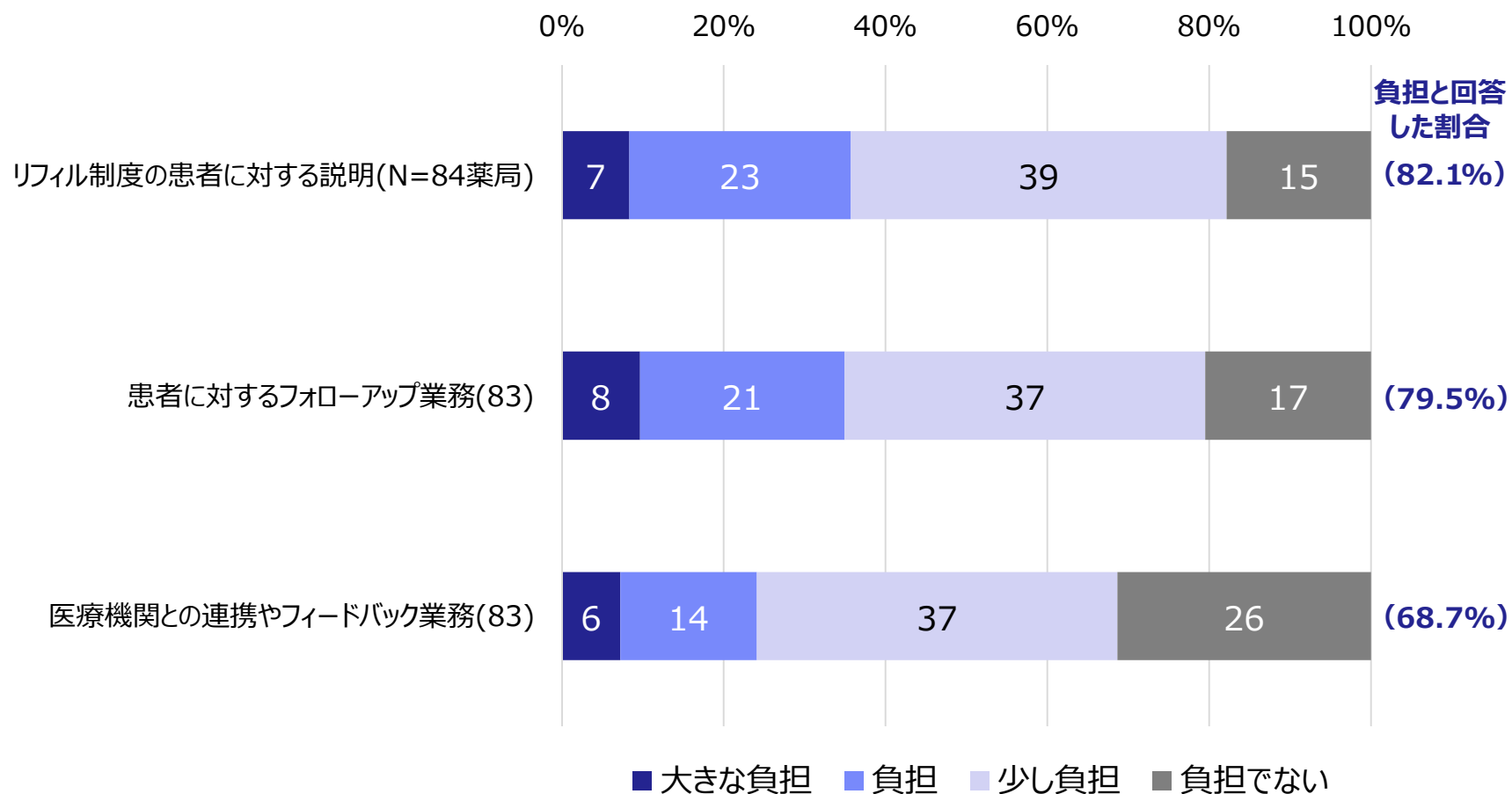
問.通常の処方箋応需と比べて、リフィル処方箋を応需した場合に、薬局業務全体として負担について教えてください。
(N=84薬局)



各種業務負担

(参考) 月10件以上の実績があった薬局では、リフィル応需に伴う「患者に対する説明」「フォローアップ」「フィードバック」の業務に関して、約8割の薬局が少なからず負担はあるという結果であった。

問. リフィル処方箋を応需した際の、各種業務への負担について



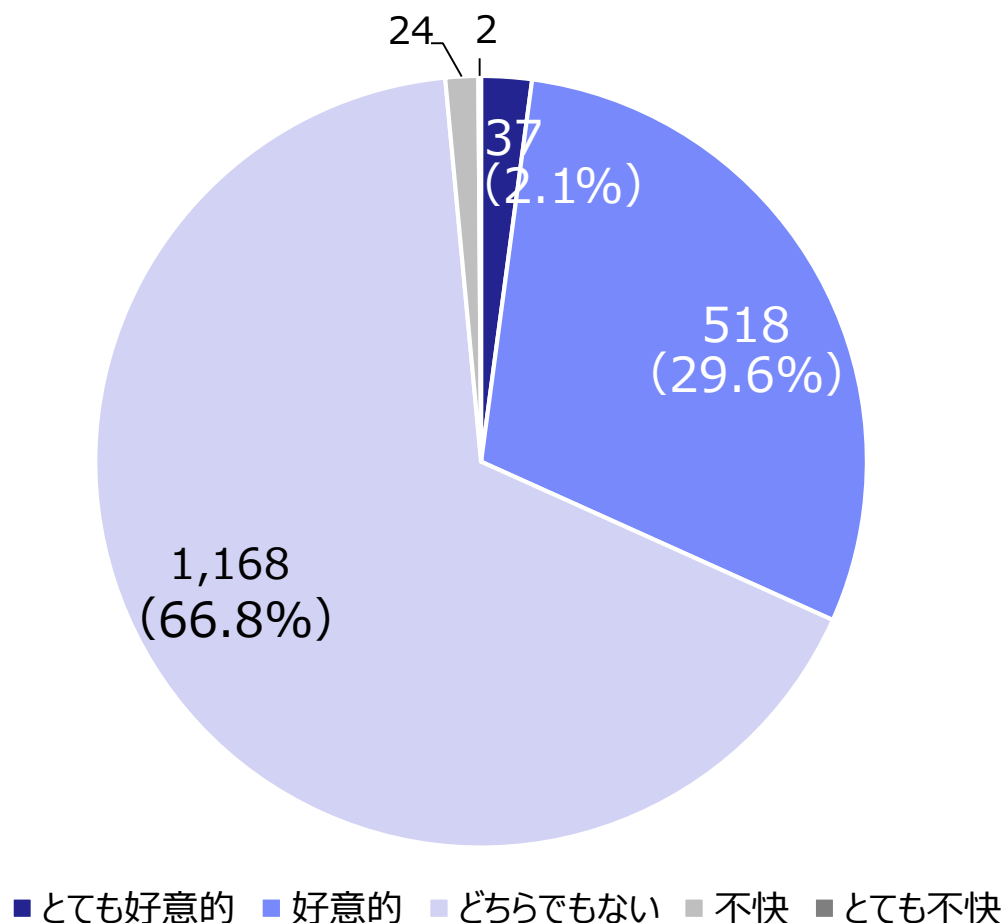
関係性の変化

- 薬局薬剤師の対応に関する患者の受け止め
- 患者との関係性の変化
- 医療機関（処方医）との関係性の変化
- 薬局側のリフィル処方箋のメリット

患者の受け止め

薬局薬剤師によるフォローアップや、処方医へのフィードバックに関する「患者の受け止め」について、「とても好意的」「好意的」の回答が31.7%であった、一方で、「不快」という回答はほとんどなかった。

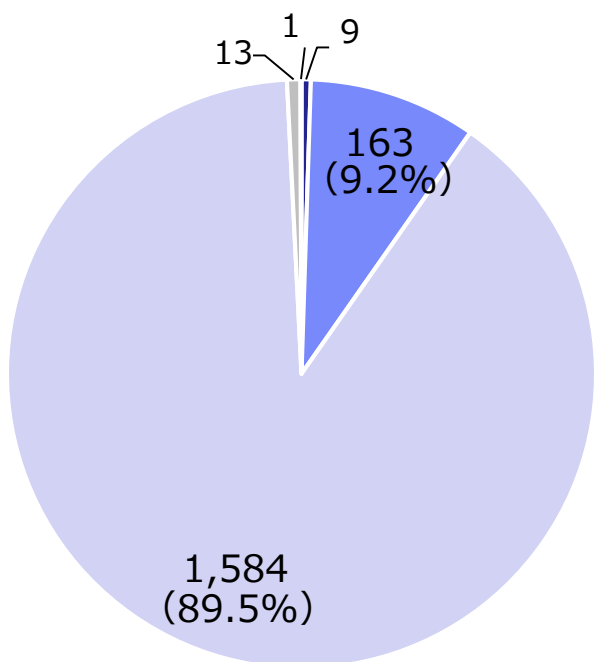
問.薬局薬剤師によるフォローアップや、処方医へのフィードバックに関する「患者の受け止め」について、感覚的に近いものを選択ください。(N=1,749薬局)



関係性の変化

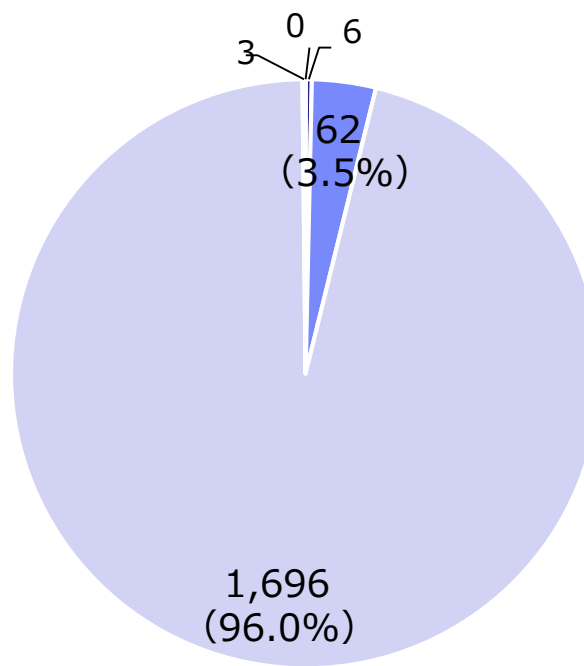
リフィル応需による患者や、医療機関（処方医）との関係性の変化では、「とても良くなった」「良くなった」という回答が一定数上がったのに対して、悪化したとの回答はほとんどなかった。

問. リフィル処方箋応需による「**患者との関係性の変化**」について、感覚的に近いものを選択ください。
(N = 1,770薬局)



- とても良くなった
- 良くなった
- どちらでもない (通常の場合と同じ)
- 悪くなった
- とても悪くなった

問. リフィル処方箋応需による「**医療機関（処方医）との関係性の変化**」について、感覚的に近いものを選択ください。(N = 1,767薬局)

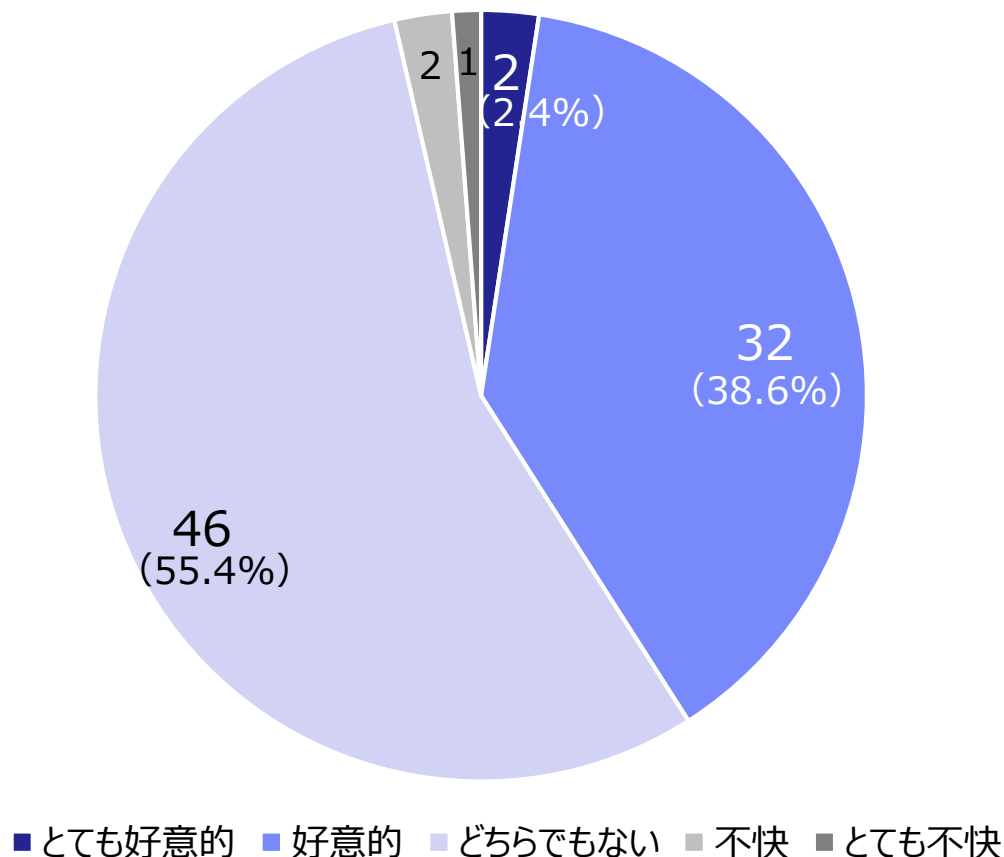


- とても良くなった
- 良くなった
- どちらでもない (通常の場合と同じ)
- 悪くなった
- とても悪くなった

患者の受け止め

(参考) 月10件以上の実績があった薬局では、薬局薬剤師によるフォローアップや、処方医へのフィードバックに関する「患者の受け止め」について、「とても好意的」「好意的」の回答が41.0%であった、一方で、「不快」という回答はほとんどなかった。

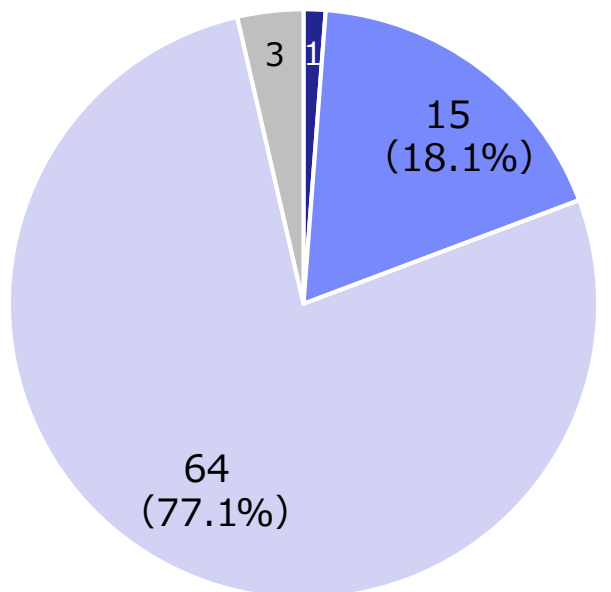
問.薬局薬剤師によるフォローアップや、処方医へのフィードバックに関する「患者の受け止め」について、感覚的に近いものを選択ください。(N=83薬局)



関係性の変化

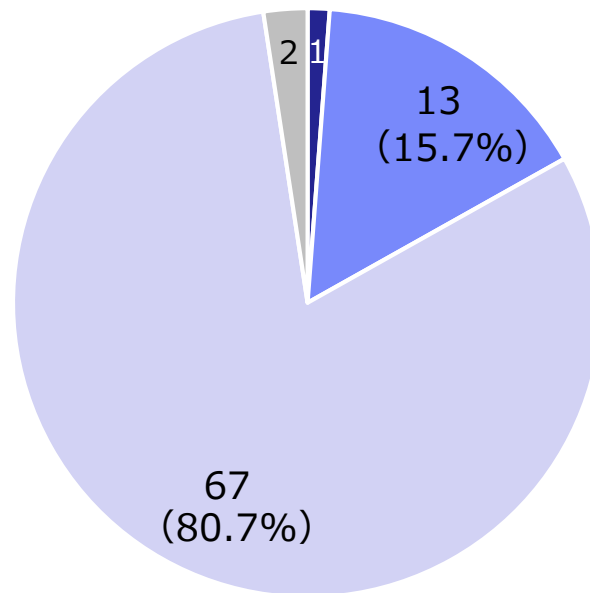
(参考) 月10件以上の実績があった薬局では、リフィル応需による患者や、医療機関（処方医）との関係性の変化では、「とても良くなった」「良くなった」の回答割合が、それぞれ19.3%、16.9%と全体平均と比べて高くなった。

問. リフィル処方箋応需による「**患者との関係性の変化**」について、感覚的に近いものを選択ください。
(N = 83薬局)



- とても良くなった
- 良くなった
- どちらでもない (通常の場合と同じ)
- 悪くなった
- とても悪くなった

問. リフィル処方箋応需による「**医療機関（処方医）との関係性の変化**」について、感覚的に近いものを選択ください。(N = 83薬局)



- とても良くなった
- 良くなった
- どちらでもない (通常の場合と同じ)
- 悪くなった
- とても悪くなった

薬局側のメリット

薬局側のメリットとして、患者・医療機関とのコミュニケーションの増加や、それによる信頼度の向上、職能発揮をメリットとしてあげる意見が多かった。

問.その他、薬局側のリフィル処方箋のメリットについて教えてください

■ 薬局機能、薬剤師の職能発揮について

- ・ 患者とのコミュニケーションの増加や信頼度の向上、職能の発揮（19件）
- ・ 処方箋枚数、来局回数の増加（9件）
- ・ 次回の日数も同じなので在庫管理がしやすい（4件）
- ・ オンライン服薬指導のきっかけになり得る点 / ・処方せんを預けてオンライン服薬指導実施、薬剤送付できるようになると考えている
- ・ 受診の回数が減ること / ・患者側の時間の有効活用
- ・ 医薬剤師としてより患者さんとの信頼関係が深くなれば薬剤管理、経過観察とその対応など、薬剤師が主導で行いやすくなる部分もあり薬物治療における薬剤師の関わりの意義が大きくなると考える
- ・ 長期処方との違いは、医師が途中で薬局に介入してほしいか否かだと思うので、フォローアップは必要であると思う。また、フォローアップができる医療機関と患者であればリフィル処方を受ける薬局の存在意義はあると思う
- ・ 患者さんの医療提供施設へのファーストアクセスとしての薬局への意識を誘導できるかもしれない
- ・ リフィル処方箋が増えれば、医療機関受診よりも先に薬局に来る（セルフメディケーションの促進に繋げる）という流れを作りやすくなる
- ・ 受診勧奨や判断をまかされているため、いい意味で責任を感じる
- ・ 一番メリットを受けるのは患者であるが、受診勧奨か調剤かの判断のためにより詳細に聞き取ろうという意識が働く
- ・ 今後リフィル処方が浸透することによって、より医療機関との連携がとれる薬局ととらない、とれない薬局との格差ができる。連携しない、したがない病院への減点がないとデメリットになる薬局もあると思われるが連携こころよくしてくれるところは無駄な医療費削減（受診のたびに不用意に行われる血液検査やDo処方での処方箋発行料、初診料など）として、とても良いと思われる

■ 医療機関との連携について

- ・ 医療機関とのコミュニケーション増加、連携の推進、算定の増加（7件）
- ・ 大学病院での受診予定によって、他のかかりつけ医に間の処方をお願いすることがあったがそれがなくなったので煩雑さが減った
- ・ リフィル処方箋より医療機関へのフィードバックしていることの方が医療機関から好評
- ・ 定期処方であるにも関わらず、頻繁に繰り返される処方ミスがなくなり助かる

Appendix

- 調査票

調査票

問1 貴店の基本情報をお伺いします。

問1-1. 調剤基本料の施設基準における、貴社・薬局グループの月の処方箋受付回数を教えてください。

☐ 3万5千回以下/月 ☐ 3万5千回超～4万回以下/月 ☐ 4万回超～40万回以下/月
☐ 40万回超/月

問1-2. 貴店の立地形態についてお教えてください。

☐ 病院前（500床以上） ☐ 病院前（200床以上 500床未満） ☐ 病院前（200床未満）
☐ 診療所前 ☐ 病院敷地内 ☐ 診療所敷地内 ☐ モール型（医療ビル含む）
☐ 面対応

問1-3. 貴店の店舗形態について教えてください。

☐ 調剤メイン ☐ ドラッグストア等併設薬局 ☐ その他（ ）

問1-4. 2022年10月単月の「全処方箋の総受付件数」についてお教えてください。（半角整数、単位は件）例：2,000

●●●●

問1-5. 貴店の処方せん集中度について、お教えてください。

（処方せん集中度とは、貴店舗の調剤基本料を算定する際の値とお考えください。）

☐ 95%超 ☐ 85%超 95%以下 ☐ 70%超 85%以下 ☐ 70%以下

問1-6. 貴店における調剤基本料についてお教えてください。

☐ 調剤基本料1 ☐ 調剤基本料2 ☐ 調剤基本料3-イ ☐ 調剤基本料3-ロ
☐ 調剤基本料3-ハ ☐ 特別調剤基本料

問1-7. 貴店における地域支援体制加算について教えてください。

☐ 地域支援体制加算1 ☐ 加算2 ☐ 加算3 ☐ 加算4 ☐ 加算なし

問1-8. 貴店における健康サポート薬局及び認定薬局について教えてください。（複数回答可）

☐ 健康サポート薬局 ☐ 地域連携薬局 ☐ 専門医療機関連携薬局（がん） ☐ 特になし

問1-9. 貴店に簡易血液検査等が実施できる検体測定室の設置はありますか？

☐ ある ☐ ない

問1-10. 貴店では手順書の配置や従業員への周知等、リフィル処方箋応需の体制が整っていますか？

☐ はい ☐ いいえ

問2 主応需医療機関のスタンスをお伺いします。

問2-1. 貴店の主応需医療機関のリフィル処方箋に関するスタンスを教えてください。

☐ 積極的に活用している（問2-2へ）
☐ 活用している（問2-2へ）
☐ 患者の希望があれば検討（問2-4へ）
☐ 活用に反対（問2-4へ）
☐ わからない（問3「リフィル制度の認知度」へ）

問2-2. 問2-1で「積極的に活用している」「活用している」を選択した方は、医療機関のスタンスにおいて、貴店が推察もしくは把握されている理由を教えてください。

（複数回答可）
☐ 患者の希望
☐ 患者の受診負担軽減
☐ 経過が良好、安定している患者に活用
☐ 薬局との情報連携ができている
☐ 医療機関の混雑回避
☐ 患者一人ひとりの診察時間確保
☐ 長期処方の減算回避
☐ 医療費削減
☐ 理由はわからない
☐ その他（問2-3へ）

問2-3. 問2-2で「その他」を選択した方は、具体的に教えてください。（任意回答、フリーコメント）

問2-4. 問2-1で「患者の希望があれば検討」「活用に反対」を選択した方は、医療機関のスタンスにおいて、貴店が推察もしくは把握されている理由を教えてください。

（複数回答可）
☐ 患者の希望
☐ 長期処方のため患者メリットがない
☐ 患者減少
☐ 収益減少
☐ 医師の診察は必須
☐ 治療経過がわからなくなる
☐ 薬局に任せられない
☐ 薬局と情報連携ができていない
☐ 地域や周囲の医療機関が反対姿勢
☐ 制度の理解不足
☐ 理由はわからない
☐ その他（問2-5へ）

問2-5. 問2-4で「その他」を選択した方は、具体的に教えてください。（任意回答、フリーコメント）

調査票

問3 リフィル制度に関する患者の認知度をお伺いします。

問3-1. 患者からリフィル制度に関して問い合わせを受けることはありますか？

☐ よくある ☐ ある ☐ たまにある ☐ ない

問3-2. 2022年4月から制度が始まり「これまでに」リフィル処方箋応需の実績はありますか？

☐ ある（問4「応需実績」へ） ☐ ない（回答者情報の入力へ）

問4 貴店のリフィル処方箋応需実績についてお伺いします。

問4-1. 2022年10月単月の「リフィル処方箋の受付件数」について教えてください。
（半角整数、単位は件）※10月の実績がない場合は「0」と回答ください。例：10

●●

問4-2. 問4-1のリフィル処方箋の受付件数のうち「オンライン服薬指導にて対応した件数」を教えてください。（半角整数、単位は件）例：10

●●

問4-3. 問4-1のリフィル処方箋の受付件数のうち「日常的に処方箋を応需している医療機関」からの割合を教えてください。（半角整数、単位は%）※概数でも構いません。例：70

●●

問4-4～問4-8に関してはおおよその状況をご回答いただくことでも構いません。
問4-4. リフィル処方箋が多い診療科について教えてください。（複数選択する場合は3つまでとってください）

☐ 内科 ☐ 呼吸器 ☐ 循環器 ☐ 消化器 ☐ 脳神経 ☐ 泌尿器 ☐ 皮膚科 ☐ 小児科
☐ 耳鼻科 ☐ 心療内科（精神科） ☐ 婦人科 ☐ 外科 ☐ 整形外科 ☐ 眼科 ☐ 歯科
☐ その他（ ）

問4-5. リフィル処方箋発行のきっかけとして最も多いものを教えてください。

☐ 患者の希望があり、医療機関から薬局に指示があった
☐ 患者の希望があり、薬局から医療機関に提案した
☐ 薬局から医療機関に提案した
☐ 薬局から患者に提案した
☐ 医療機関から薬局に指示があった
☐ 医療機関から患者に提案があった
☐ わからない
☐ その他（ ）

問4-6. 2022年4月からこれまでのリフィル処方箋応需のうち、1回目は応需したが、その後、2回目、3回目の応需がなかったおおよその割合を教えてください。（半角整数、単位は%）例：10

●●

問4-7. 2022年4月からこれまでのリフィル処方箋応需のうち、1回目は応需していないが、2回目、3回目を応需したおおよその割合を教えてください。（半角整数、単位は%）例：10

●●

問4-8. 貴店においてリフィル処方箋は、増患につながりますか？

☐ はい（増患） ☐ どちらともいえない ☐ いいえ（減少）

問5 リフィル処方箋応需における薬局薬剤師の対応についてお伺いします。

問5-1. 通常の処方箋応需と比べて、リフィル処方箋を応需した場合に、より意識して取り組んでいる対応があれば教えてください。（複数回答可）

☐ 体調変化、服薬状況、副作用発現等の経過確認
☐ 検査値の把握
☐ 薬局における簡易血液検査
☐ フィジカルアセスメント
☐ 生活習慣に係る指導
☐ 服用期間中フォローアップ
☐ 処方医へのフィードバック及び受診勧奨
☐ オンライン服薬指導の案内
☐ 特になし（通常の処方箋応需と同じ）
☐ その他

問5-2. 問5-1で「その他」を選択した方は、具体的に教えてください。（任意回答、フリーコメント）

問5-3 服用期間中フォローアップの実施及び頻度として貴店の対応に近い内容を選択ください。

☐ 次回調剤までに複数回
☐ 次回調剤までに1回程度
☐ 次回診察までに複数回
☐ 次回診察までに1回程度
☐ 薬剤師の判断や処方医、患者の求めに応じて実施
☐ 実施していない
☐ その他（フリーコメント）

問5-4. フォローアップを実施した際の指導、確認の内容について

①次回調剤予定日のお知らせ
☐ 必ず実施 ☐ 概ね実施 ☐ 実施している ☐ 実施していない

②体調変化、服薬状況、副作用発現等の経過確認

調査票

☐必ず実施 ☐概ね実施 ☐実施している ☐実施していない

③生活習慣に係る指導の実施

☐必ず実施 ☐概ね実施 ☐実施している ☐実施していない

④必要な患者に対するバイタル、血糖等の検査値の把握

☐必ず実施 ☐概ね実施 ☐実施している ☐実施していない

⑤受診勧奨の必要性の判断

☐必ず実施 ☐概ね実施 ☐実施している ☐実施していない

⑥他薬局への情報提供が必要な際の対応（例えば2、3回目を他薬局での調剤を希望された場合）

☐必ず実施 ☐概ね実施 ☐実施している ☐実施していない

⑦その他実施していること（フリーコメント）

問5-5. 医療機関（処方医）へのフィードバックの実施及び頻度として貴店の対応に近い内容を選択ください。

☐次回調剤までに複数回

☐次回調剤までに1回程度

☐次回診察までに複数回

☐次回診察までに1回程度

☐薬剤師の判断や処方医、患者の求めに応じて実施

☐実施していない

☐その他（フリーコメント）

問5-6. フィードバックに関して医療機関（処方医）と取り決めがある場合はその内容をご紹介します。（任意回答 フリーコメント）

例：次回診察前に所定のフォーマットにてフィードバックを行う取り決めがある

問5-7. リフィル処方箋応需に係る薬局薬剤師が介入した受診勧奨事例や、その他好事例がありましたらご紹介ください。（任意回答 フリーコメント）

例：受診勧奨した事例、フィードバックに対して処方医から感謝された事例など

問5-8. リフィル処方箋応需に係る困った事例がありましたらご紹介ください。（任意回答 フリーコメント）

例：リフィル処方箋への記載不備について疑義照会が増えた。面応需の場合フィードバックができない。

問5-9. 薬局薬剤師によるフォローアップや、処方医へのフィードバックに関する「患者の受け止め」について、感覚的に近いものを選択ください。

☐とても好意的 ☐好意的 ☐どちらでもない ☐不快 ☐とても不快

問5-10. リフィル処方箋応需による「患者との関係性の変化」について、感覚的に近いものを選択ください。

☐とても良くなった ☐良くなった ☐どちらでもない（通常の場合と同じ） ☐悪くなった ☐とても悪くなった

問5-11. リフィル処方箋応需による「医療機関（処方医）との関係性の変化」について、感覚的に近いものを選択ください。

☐とても良くなった ☐良くなった ☐どちらでもない（通常の場合と同じ） ☐悪くなった ☐とても悪くなった

問5-12. その他、薬局側のリフィル処方箋のメリットについて教えてください。（任意回答、フリーコメント）

問6 リフィル処方箋を応需する際の業務負担についてお伺いします。

問6-1. 通常の処方箋応需と比べて、リフィル処方箋を応需した場合に、薬局業務全体として負担について教えてください。

☐負担が大きく増える ☐増える ☐変わらない ☐減る ☐大きく減る

問6-2. リフィル制度の患者に対する説明について

☐大きな負担 ☐負担 ☐少し負担 ☐負担でない

問6-3. リフィル処方箋により薬剤が交付された患者に対するフォローアップ業務（薬歴への記録、申し送り含む）について

☐大きな負担 ☐負担 ☐少し負担 ☐負担でない

問6-4. 医療機関（処方医）との連携や、フィードバック業務について

☐大きな負担 ☐負担 ☐少し負担 ☐負担でない

問6-5. その他、負担となっている業務がありましたら教えてください。

（任意回答 フリーコメント）

問7 リフィル処方箋の管理についてお伺いします。

問7-1. これまでに患者がリフィル処方箋を紛失した事例はありますか？

☐ある ☐ない

問7-2. これまでに患者にリフィル処方箋を薬局にて預かってほしいとお願いされたことはありますか？

☐よくある ☐ある ☐たまにある ☐ない

問7-3. リフィル処方箋の管理に係る貴店の対応に近いものを選んでください。

調査票

- ☐必ず患者に返却
- ☐患者の希望があれば預かる
- ☐処方箋紛失リスクを説明して薬局預かりを推奨

回答者情報

※いただいたご回答、ご意見に関して、お問い合わせさせていただく場合はございますが、会社名や薬局名が許可なく、NPhA 内外に公開されることはありません。

問 8－1. 所属会社名

問 8－2. 薬局名

問 8－3. 都道府県

01 北海道 02 青森県 03 岩手県 04 宮城県 05 秋田県 06 山形県 07 福島県 08 茨城県 09 栃木県 10 群馬県 11 埼玉県 12 千葉県 13 東京都 14 神奈川県 15 新潟県 16 富山県 17 石川県 18 福井県 19 山梨県 20 長野県 21 岐阜県 22 静岡県 23 愛知県 24 三重県 25 滋賀県 26 京都府 27 大阪府 28 兵庫県 29 奈良県 30 和歌山県 31 鳥取県 32 島根県 33 岡山県 34 広島県 35 山口県 36 徳島県 37 香川県 38 愛媛県 39 高知県 40 福岡県 41 佐賀県 42 長崎県 43 熊本県 44 大分県 45 宮崎県 46 鹿児島県 47 沖縄県

以上



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会